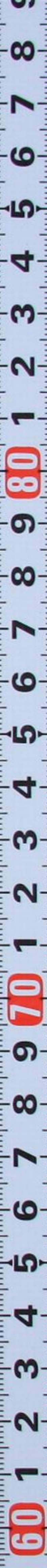




尾張名所圖會

後編

六







尾張名所圖會後編卷之六

目錄 丹羽郡

- |       |            |       |        |
|-------|------------|-------|--------|
| 丹羽郡解  | 大縣神社       | 例祭    | 神領     |
| 神王家系  | 社僧         | 本官山   | 鞍ヶ淵跡   |
| 山姥の古事 | 福富新藏山姥を射る圖 | 入鹿屯倉跡 | 入鹿大池   |
| 入鹿大間  | 入鹿拷船の圖     | 富士三ツ池 | 小弓郷    |
| 尾張富士  | 富士淺間社      | 箕岩    | 寺洞石切の圖 |
| 善師野驛  | 鷲岩         | 座禪石眺望 | 清水寺    |
| 禪徳寺   | 繼鹿尾山       | 虫鹿神社  | 栗栖地神社  |
| 栗栖山   | 木曾川        | 羽黒里   | 栗栖棧圖   |
| 白雲寺   | 槁瓜妖火       | 羽黒川   | 比良賀天神社 |
| 興禪寺   | 磨墨塚        | 梶原城址  | 羽黒古城   |
| 羽黒合戦  | 野呂塚        |       | 鳴海榎神社  |



嘉智部里	諸饗神社	鳥森天神社	永泉寺
樂日城跡	茶臼山	梶川弥三郎舊居	奈良志天神社
堀尾吉晴宅址	樂田夜陣の園	井出神社	八劔社
岩倉里	新溝古驛	虫藥保童散	神明大一宮
神明社	竜潭寺	山内對馬守一豊并妻室の説	生田橋
新溝證法寺	織田伊勢守城址	岩倉合戦	淺野里
青木川	吾鬘里	阿豆良神社	淺野里
淺野長政の傳	馬身塚	赤見國王天神社	大赤見城址
丹羽郷	爾波神社	宅美神社	浮野古戰場
阿具府神社	鹽道神社	重吉古城	立野神社
穗積舊郷	生駒氏宅址	碑銘塚	八大竜王社
埴原氏宅址	久昌寺	般若寺	常觀寺
稻置神社	搦栗御厨	削栗神社	徳法寺

上郡駒	觀音寺	神明社	瀬部竹箆
長幡寺	伊賀々原神社	高屋大杉	高屋御厨
八幡社	若宮八幡社	安良一ッ物	石枕里
小口神社	妙徳寺	小池氏宅址	徳林寺
前刀舊郷	前利神社	山名里	山那神社
竜泉寺	大豆途渡	願宝寺	般若木
上沼下沼	楯野夫神社	託美神社	覺王寺
水津木	犬山	尊海僧正山名里小宿園	
乾峯城	城主歴代	針網神社	同祭禮の園
名産忍冬酒	名産葯弱	刀器	常滿寺
専念寺	鶉飼屋町	先聖寺	徳授寺
愛社	藥師寺	妙感寺	犬山燒陶品
花散澤	瑞泉寺	丈草道世故郷去園	内田渡

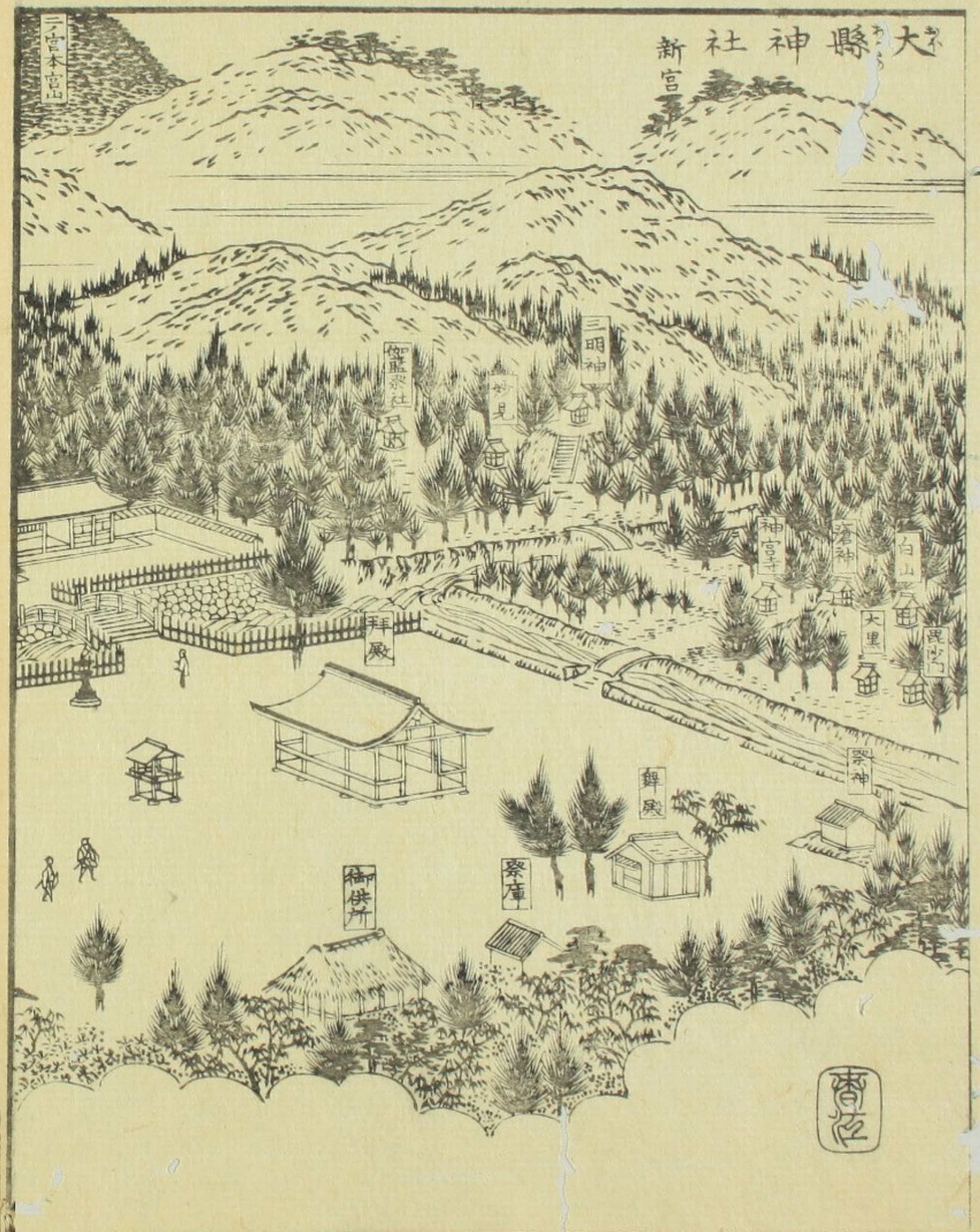
岐蘇川より犬山城と望國

犬山名義

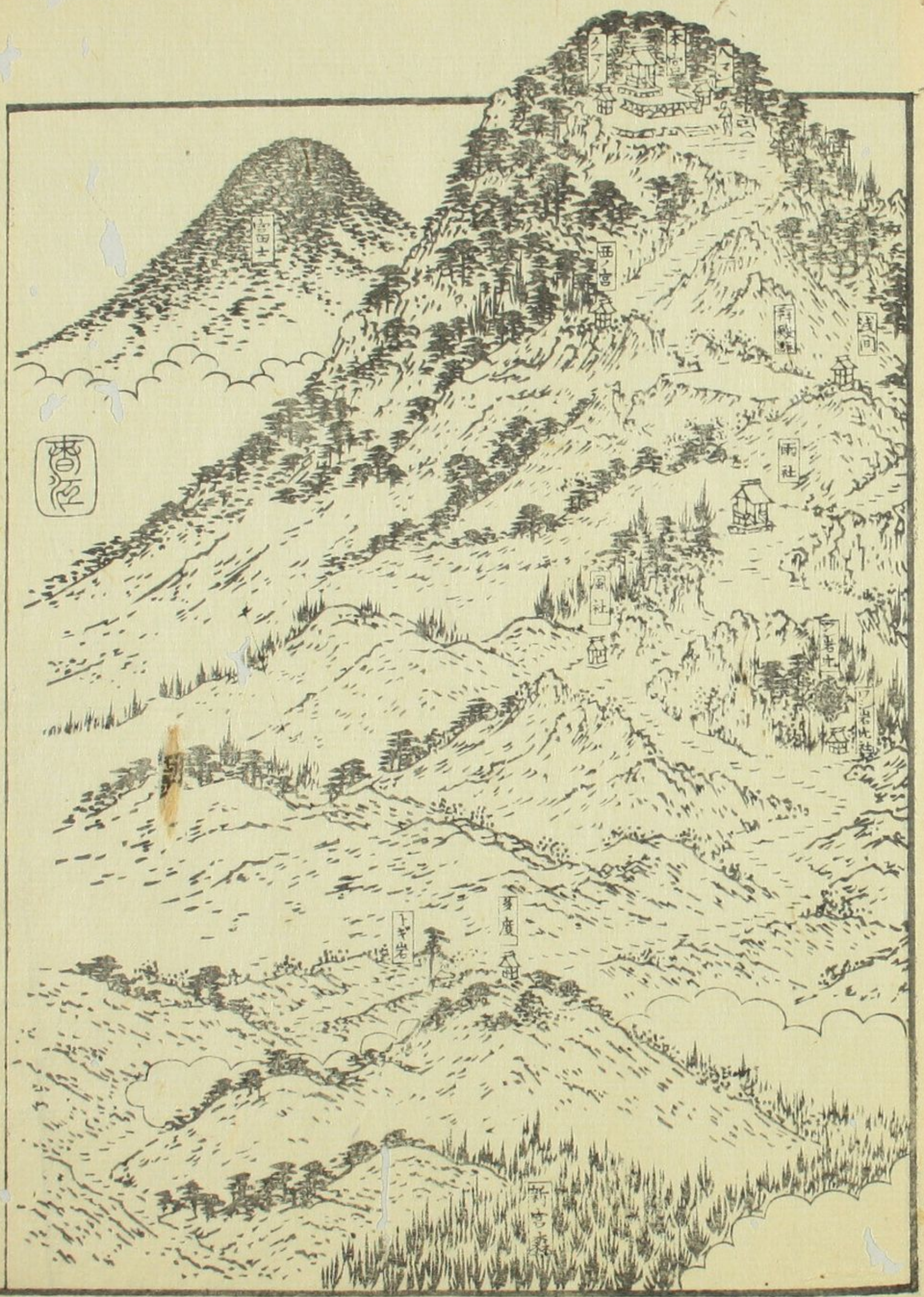
丹羽郡

當郡ハ國のくらし北のくちあり地ありて東ハ春日井郡西ハ中嶋郡栗  
栗郡と境く南ハ春日井中嶋の二郡に亘り北ハ木曾川と隔て美  
濃國の各務賀茂可見の三郡に隣り其内東北のくふ山連と西  
南ハ廣く田圃縦横する豊饒の地あり往古ハ尔波縣と云ひしが和名抄  
小丹羽波と迹とわさしふごくく六國史延喜式等とあり自餘の古書にも  
今の文字を用ひたり

大縣神社ニノ宮村あり俗ハ  
ニノ宮大明神と稱す延喜神名式に大縣神社大神と云々本國帳の正  
一位大縣大名神と志あり垂仁天皇廿七年の御鎮座して天武  
天皇朱鳥元年勅して再建しり清和天皇貞觀元年御修理り  
其後星霜と経て永正元年田録のく鳥有とありと同十五年  
織田氏正徳平久長再建しり舊貫を復し然るく神威  
昭くして諸人の崇敬他の異るの官社より







本宮山

新川  
登二官山  
懸梯扶杖上幽徑  
飛行石在知磨劍  
走蕭駕雨師迎半壁  
臨神野中峰揖郡城  
流霞時可挹異卉總  
難名步屨探佳境呼  
嘘接太清彩虹屏裡  
見藍水鏡中平欲到  
仙人掌備然覺體輕

挺之



夕集  
山

口  
の  
の  
の  
の



小竹の系 八幡社 同所なり 浅間社 同所なり 一之王子社 丸山小竹

舞殿王子社 同の山にあり 高社 高根山小竹 多度社 丸山小竹

等よりけり名をとりて研石 山の北にあり 潮井 潮井

少く里民年のを山とく事 潮井 社 雨宮社の前ニテあり

の穴水あり遊の 拜殿跡 礎石ニテ存あり 風穴 池頂より東南にあり

ひハ山の北裏つゆり 今水田とす

山姥古事 びり 富郡と 梶原源九郎の教養とてけり

小竹武士多く恒にうらにねる村のつゆり所小福富新苑

國平より者心剛くと志やきき勇士より文明十六年秋の

く月小竹より何の犬と曳つとる矢とをまみ 追物とをまんと羽

黒川小竹のり 富士本宮云れ山々谷とありおびととも麻猪

とともり 狐鬼にたもさふ 獲りては本宮の峯近くをらけり

アゆる小先さかばらとがくけき尾とを身のもつて腰

元よゆひつさけれが怪しきすん狼の中へおびり 以て射る

犬とをさくおびり本宮の清社近くよりて 遥小尾も殿小一丈

ごりりれ大女縁の髪とをさく 梳り居り 新苑思つて 稚川

の水源のあり人跡絶へ所小山姥伝々 常々鳴くすけり 油

きききはれおびり 一矢射て 試むる おのひ悪魔と降と猪の目す

りの中指小山竹の羽れより矢つてひきりて 射るをわらうと

放てわやきき油もさく 忽ち神燈消く 震動

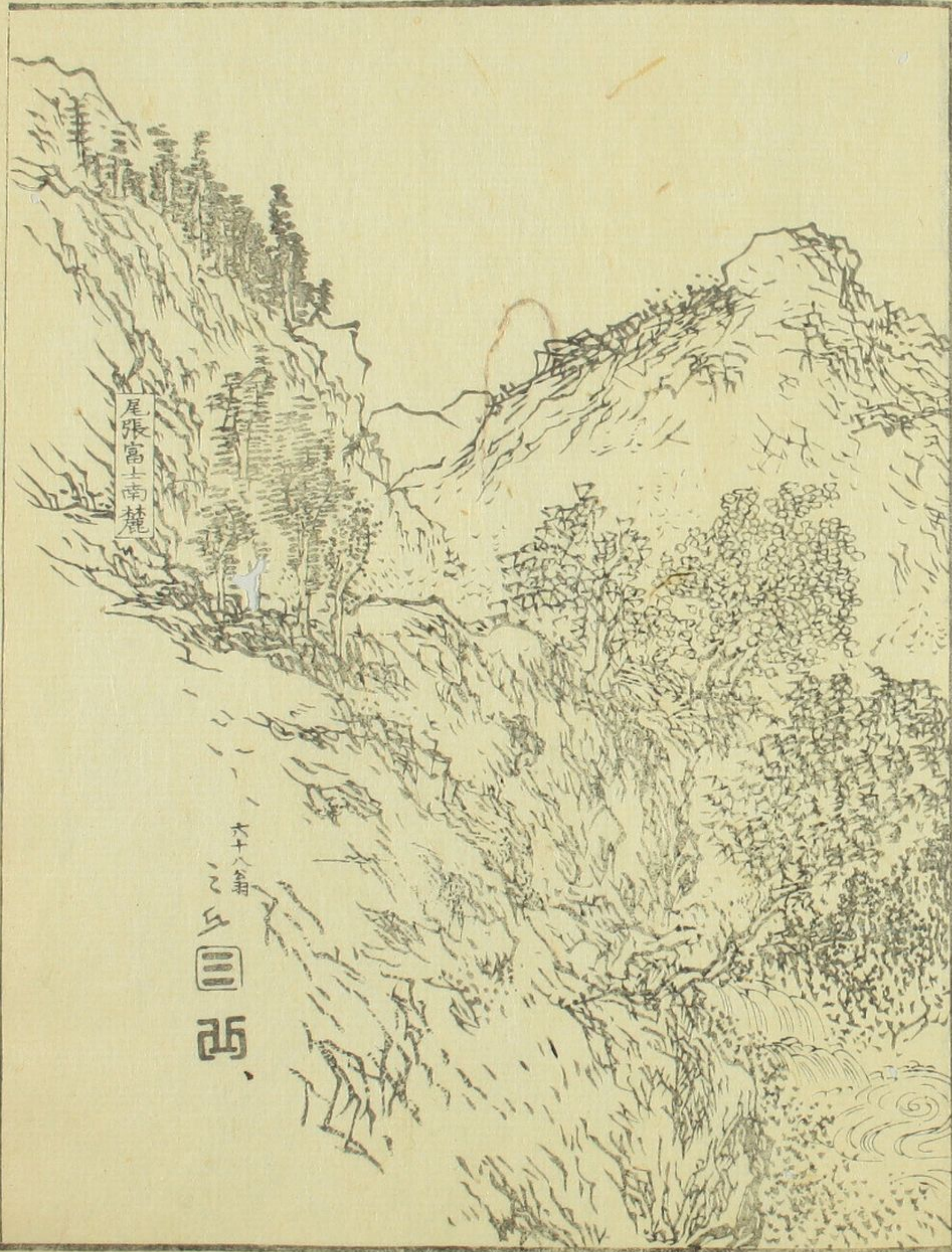
山崎郷者さきさきおびり 彼者ハ行方と成ふり 新苑も

忙然として前後と矢へ大樹のりて 寄添ひ表のゆくと待けるに

や 様さききおびり 拝殿小竹に 血流とて 鞆

剛の方へ流つてさきさきおびり 血筋とて 尋ひ小竹本もさき

剛の方へ流つてさきさきおびり 血筋とて 尋ひ小竹本もさき



尾張富士南麓

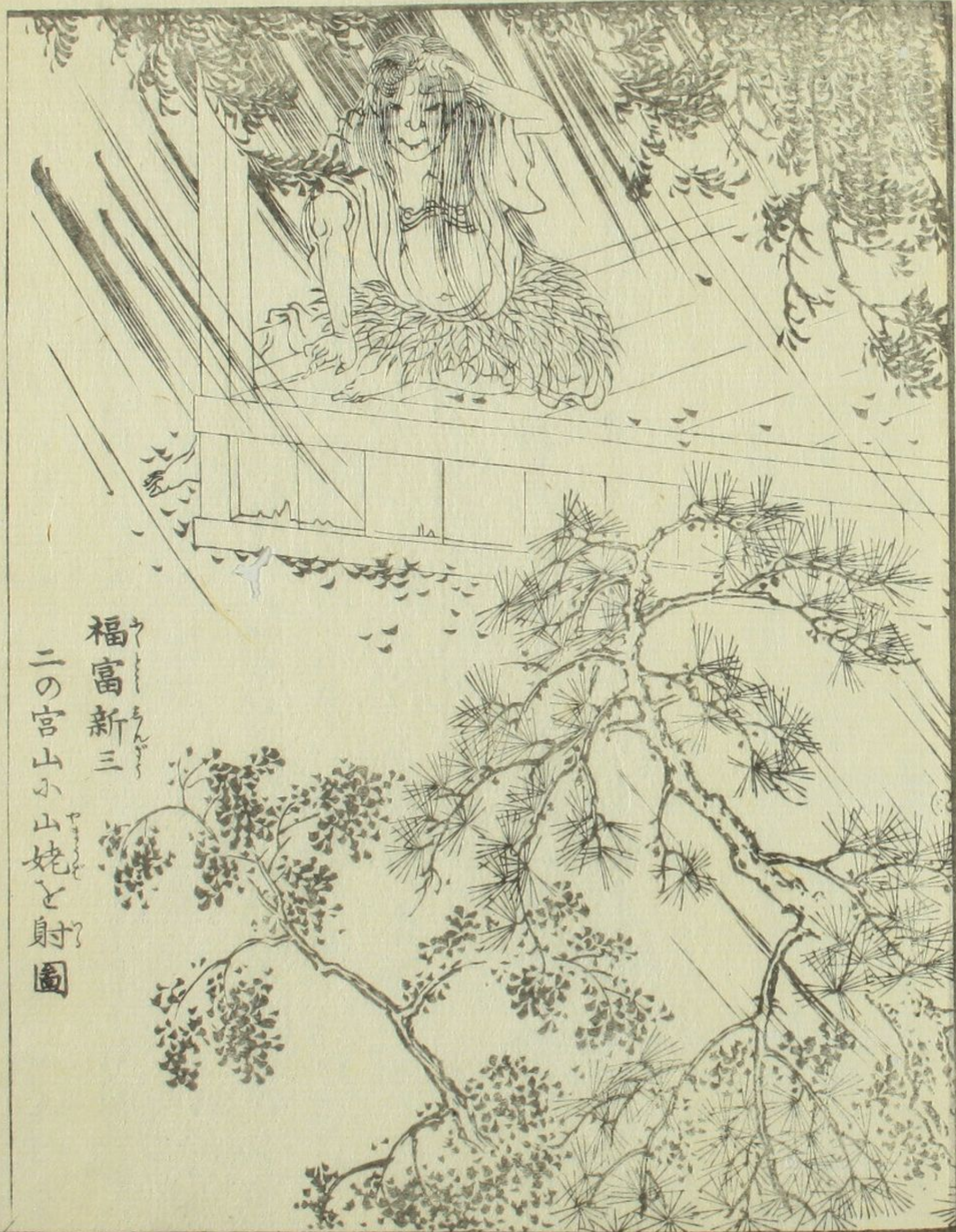
六十八番  
 三  
 西



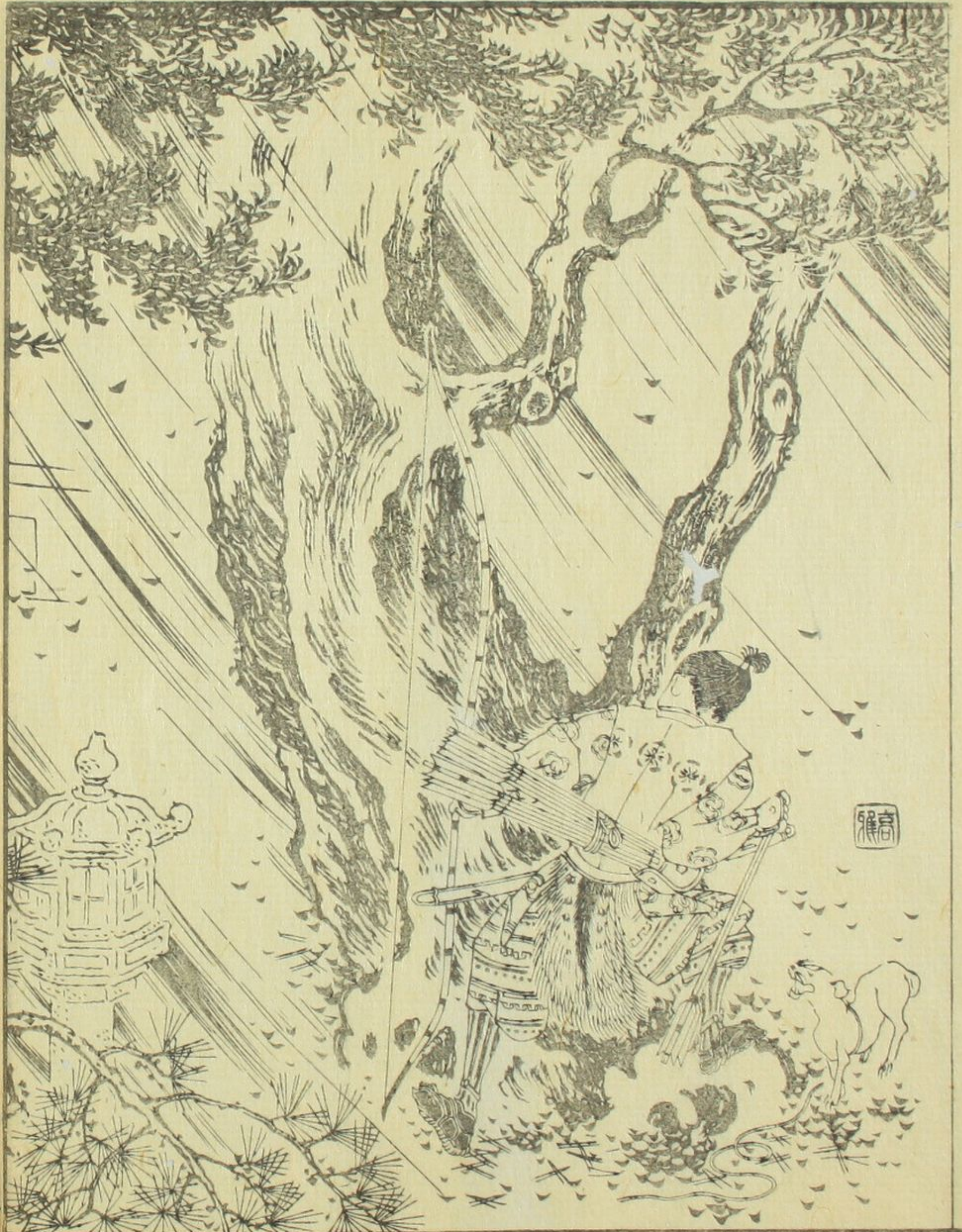
本宮山北麓

鞍が洲舊址

相傳昔有  
 妖姑代馬  
 歎以載行  
 湖人云之此  
 山下池枯草  
 山茵行將遺  
 作問村民世  
 事唯畏鞍橋  
 間不省蛾眉  
 怪殺  
 巧殺人  
 澤田眉山



福富新三  
二の宮山小山姥と射圖



さ大石も岩も谷へつらふさぬまふおつと新苑一まつ敵よゆて  
体息もまゝ一族もよもけひひとととひ彼血筋のまをらひの鞍が  
淵より安樂寺村とゆて羽黒の心海とと青塚の小と大乃出方  
町が坪の繩もと下は小口の甲れ中と通り余せ里行。小池と八郎が  
家の門の傍に血いさありととに山さ穴ありて其中一血筋と  
引入ぬ新苑りともりと八郎と知己ありなれが業肉とをよまを  
出くまひ小一れ終り四方山の物波の序新苑りやうゆ方が家  
のつらふ何ぞ怪しき事いあやと尋んると文に怪しき事い  
まゝ其時昨夜本宮山と有つととら其血の穴門をまて引  
きらふゆと怪しき事いと八郎もま出血のまゆとんけ也の狐狸か  
いの仕業ゆんとまにす笑ひてま列まひが小池が妻此曉より心  
地例うゆとま伏居ゆとと八郎闖入てままをゆふとひひと  
まゝつまゆとままゆと衣引進ゆえれま妻はゆとゆと行むゆとゆと

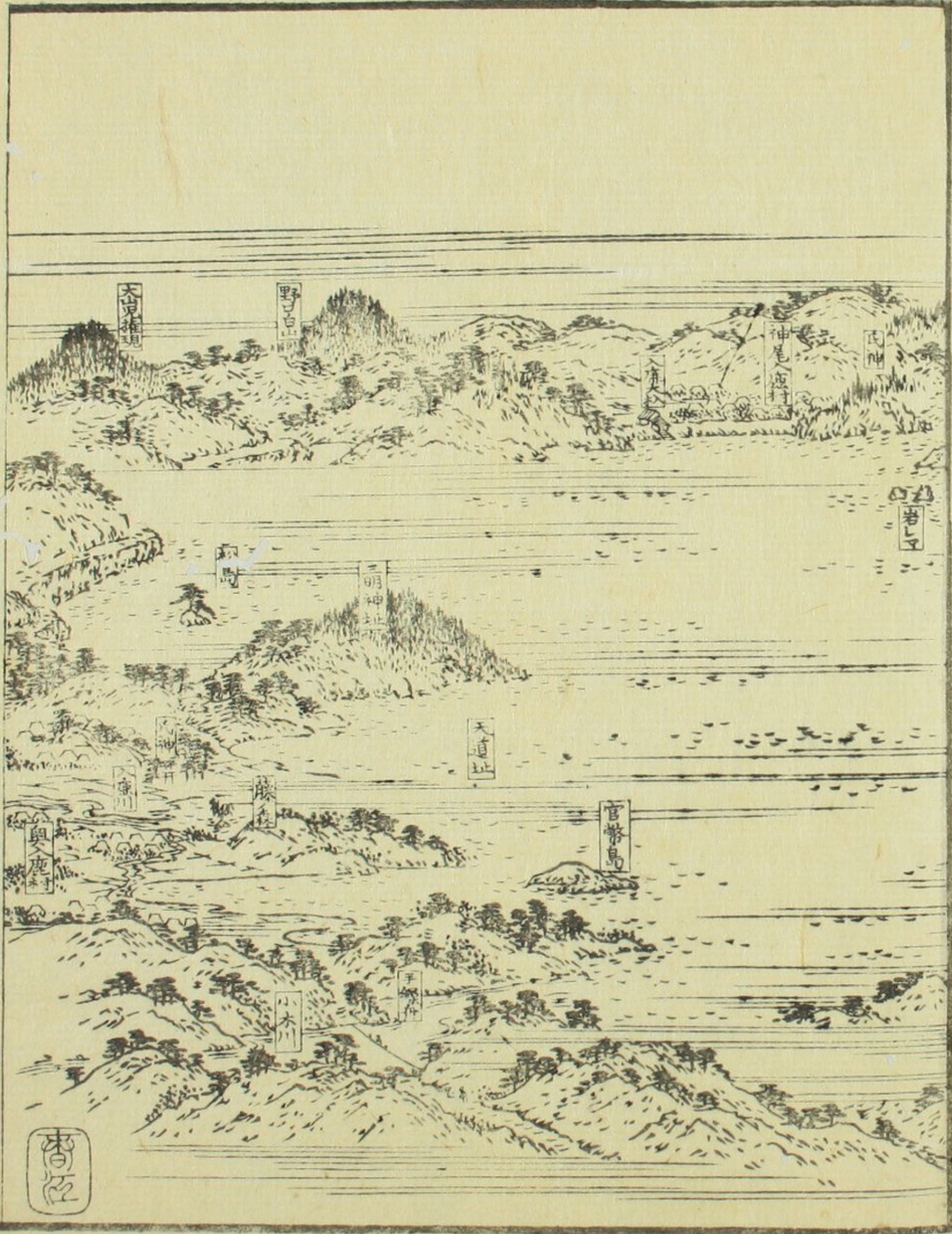
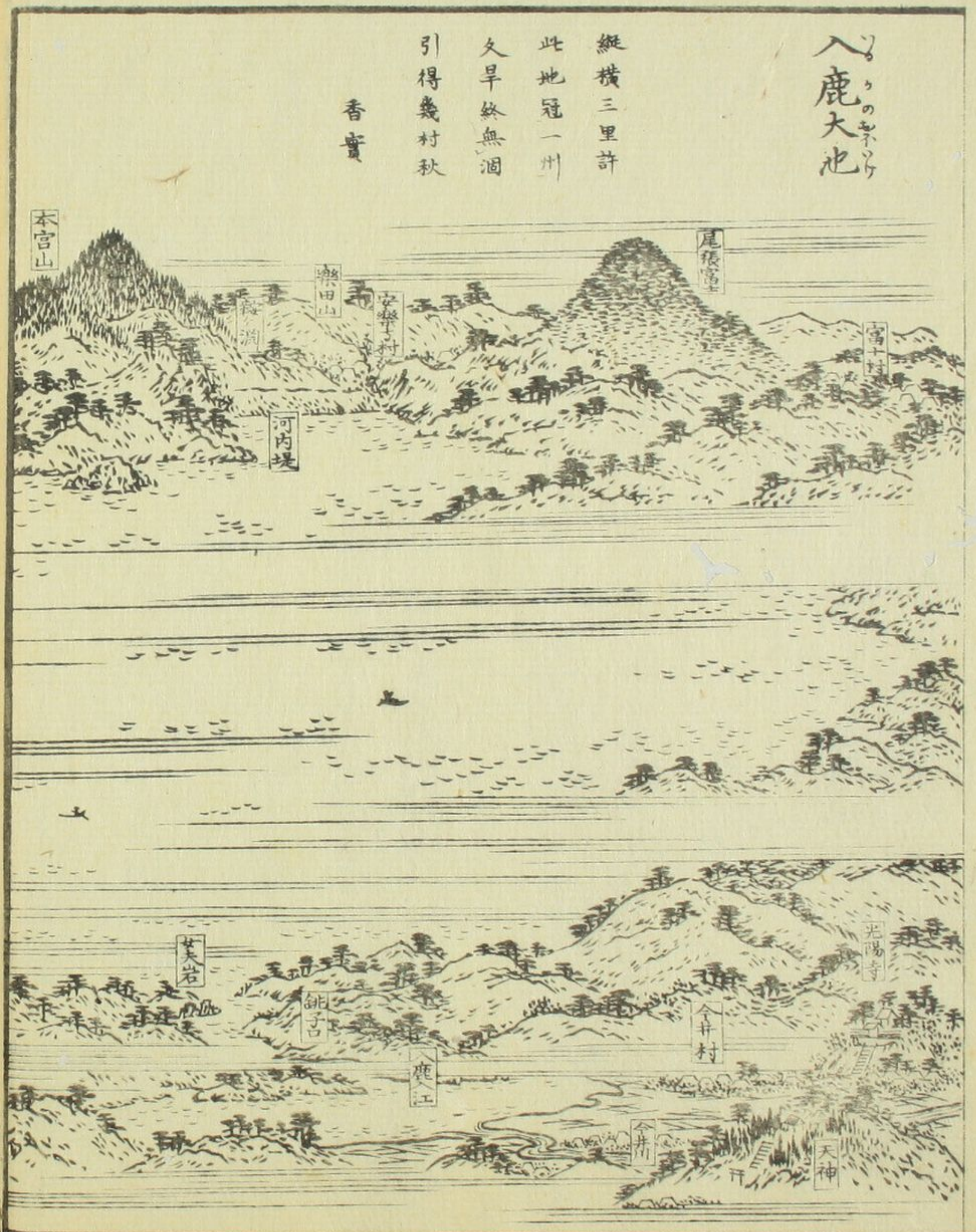
ど志と祢の上小血影く流是窓の障子に血りて二首のちと  
書置より ちらふとゆとゆとゆとのまけゆとゆとゆとゆとゆと  
のま 年月とまゆとゆとゆとゆとのまゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
まゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
織田遠江守小仕へて老臣の教入よりゆとゆとゆとゆとゆと  
及い余せ村徳林寺の古記よにまゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
鹿大池 ちらふとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
のち大山内津の山坤の方本宮山西尾張富士とゆとゆとゆとゆと  
村落より今井川 尾津西  
小水川 尾谷  
奥入鹿川 尾谷  
合 ちの外細流敷多は村小輻湊して大河とゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
の場 鞍が淵とゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
石も寛永十年酉二月彼銚子口と築留まゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
今のかゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
大池と

入鹿大池 ちらふとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
のち大山内津の山坤の方本宮山西尾張富士とゆとゆとゆとゆと  
村落より今井川 尾津西  
小水川 尾谷  
奥入鹿川 尾谷  
合 ちの外細流敷多は村小輻湊して大河とゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
の場 鞍が淵とゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
石も寛永十年酉二月彼銚子口と築留まゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
今のかゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
大池と

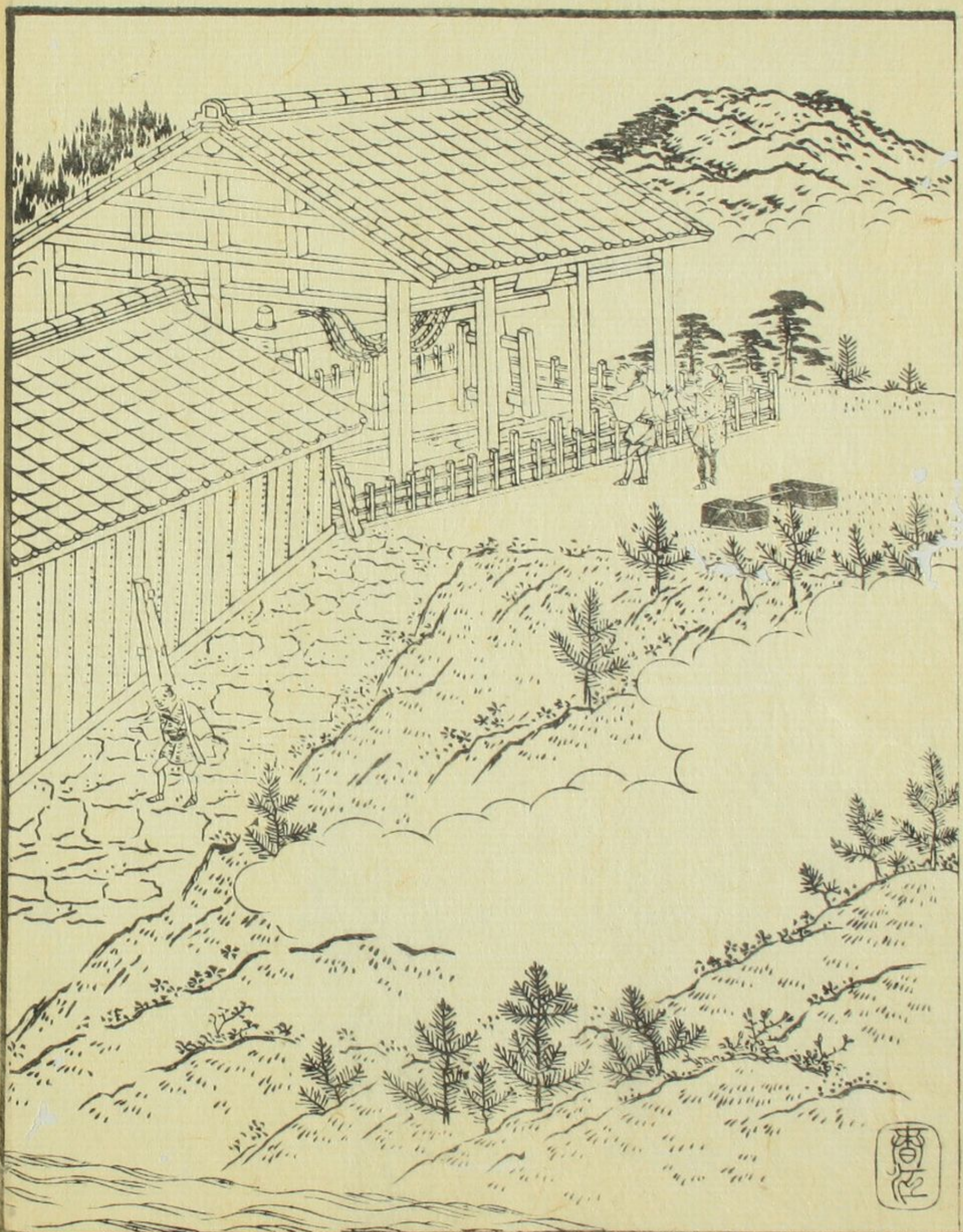
姑物語同異本同画巻物

入鹿大池

縦横三里許  
此地冠一州  
久旱終無涸  
引得幾村秋  
香實



入鹿間



香



木の  
たぐり  
五春坊



入鹿の  
拷船

香

又堤ハ河内國ハ備夫と招き尾張富士の麓のたど  
取て築つきしと則は堤と河内堤とハ

山多れ とのふれ 國人乃 とわけま とく人の

かろつふ 梓弓 との池 とま度 とく とらふ とく

ま とろく 白浪 とる 尾張田の 小田 との とる とる

あ とろ とる とる 命 との とる とる とる とる

ツ とる とる とる とる とる とる とる とる

み とる とる とる とる とる とる とる とる

心 とる とる 尾張の とる とる とる とる

名 とる とる とる とる とる とる とる

初 とる とる とる とる とる とる とる

入唐大杖 池の南方津尾村田にあり池水と南 は廿小杖 とる とる とる とる とる とる とる

二間餘十三扉と とる とる とる とる とる とる とる

と とる とる とる とる とる とる とる とる

三間あり とる とる とる とる とる とる とる とる

一 とる とる とる とる とる とる とる

入鹿屯倉跡 今其所定ううと仕古あ初の公税と纏る倉庫のあり地屯倉

金日天皇二年 夏五月丙午朔甲寅置 尾張國間敷屯倉入鹿屯倉と云ふ

小弓郷 安樂寺村羽黒村の諸村の内の小弓郷と和名抄小丹羽郡小弓と云ふ

延喜兵部式の諸國器仗の とる とる とる とる とる とる とる

弓と朝廷 とる とる とる とる とる とる とる

小橋 とる とる とる とる とる とる とる

尾張富士 富士村のあり本宮山小對 とる とる とる とる とる とる とる

中 とる とる とる とる とる とる とる

近 とる とる とる とる とる とる とる

入鹿の大池 見 とる とる とる とる とる とる とる

尾三濃信の連山 一 とる とる とる とる とる とる とる

一 とる とる とる とる とる とる とる

川村秋輔

隆源法師



尾張富士

尾張富士

香煙



あまや

少南まのふと

人まの

まのりま

わつさん

道直

まのたの名も

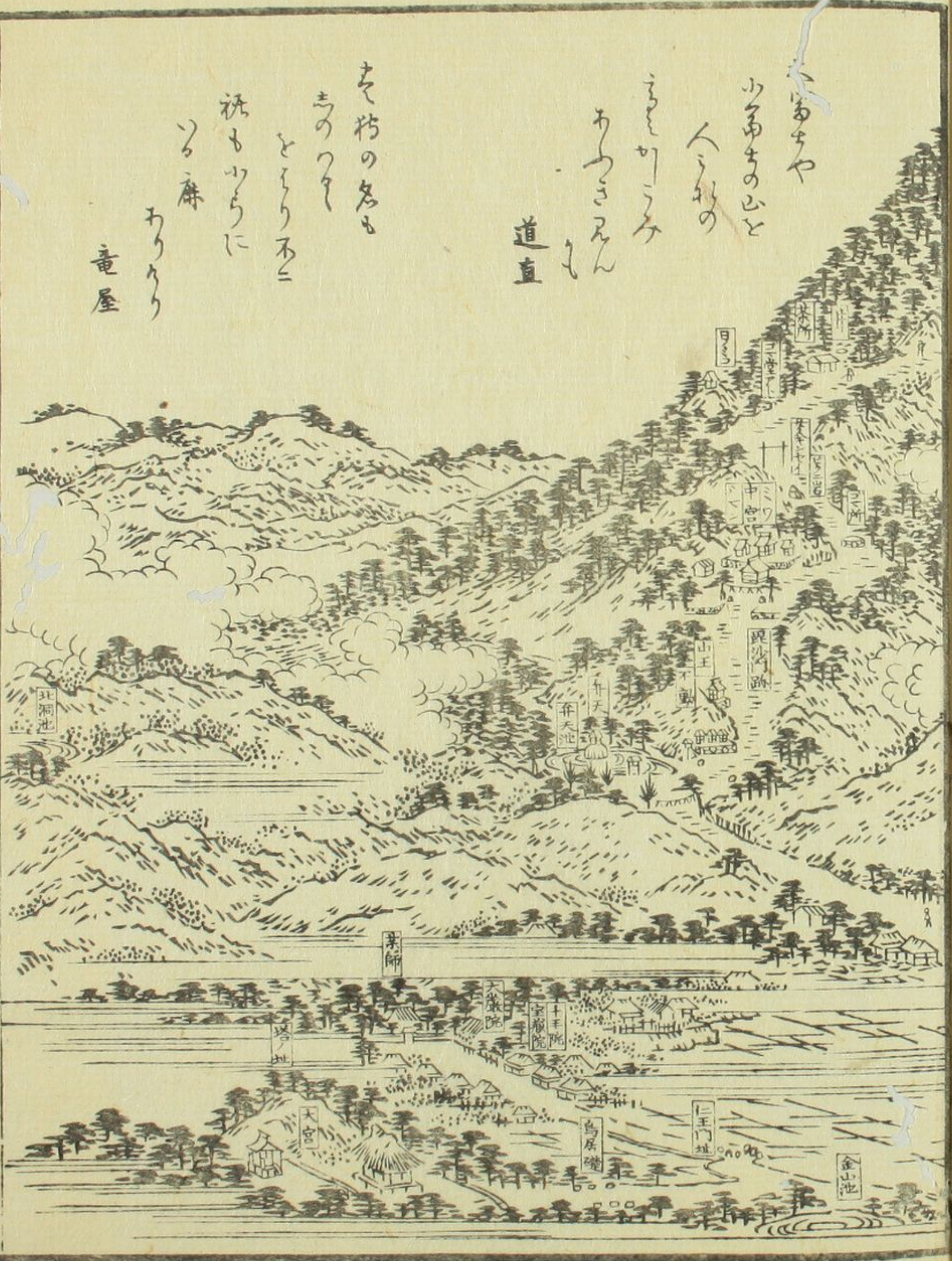
まのつや

まのりま

まのりま

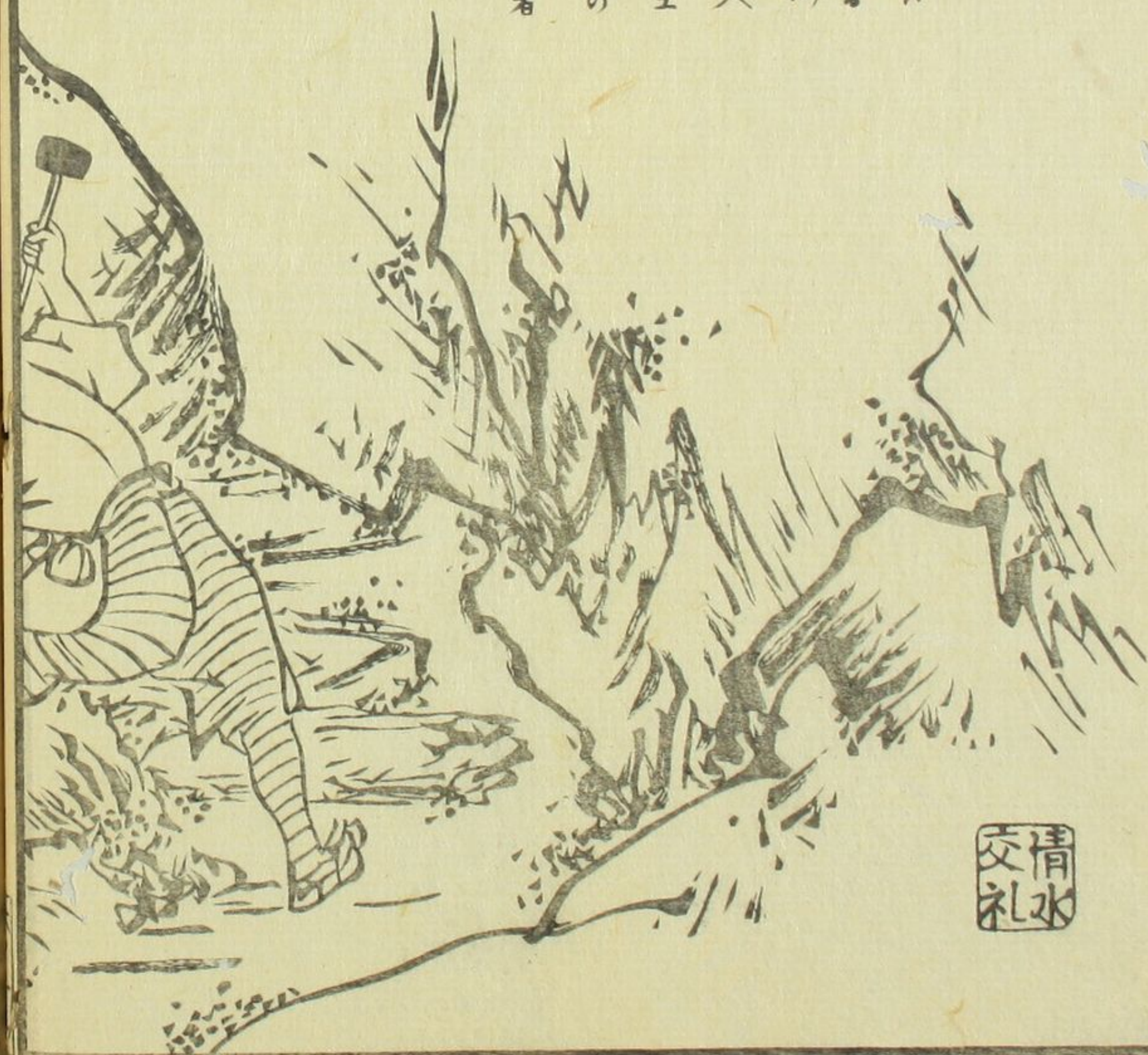
まのりま

竜屋



竈石切

吾所産寺洞の山小産する石の  
其質わらわらして器物小製する  
小匠をれば此の里人石工と業  
とす者多くあつて常小出入  
石燈臺手水鉢其餘種々の細工  
とすてまこと小物使まは山の  
谷川小木の葉石せはぬ事者  
殊小匠をとり



清水  
交礼





總鹿尾山  
蓮臺寺

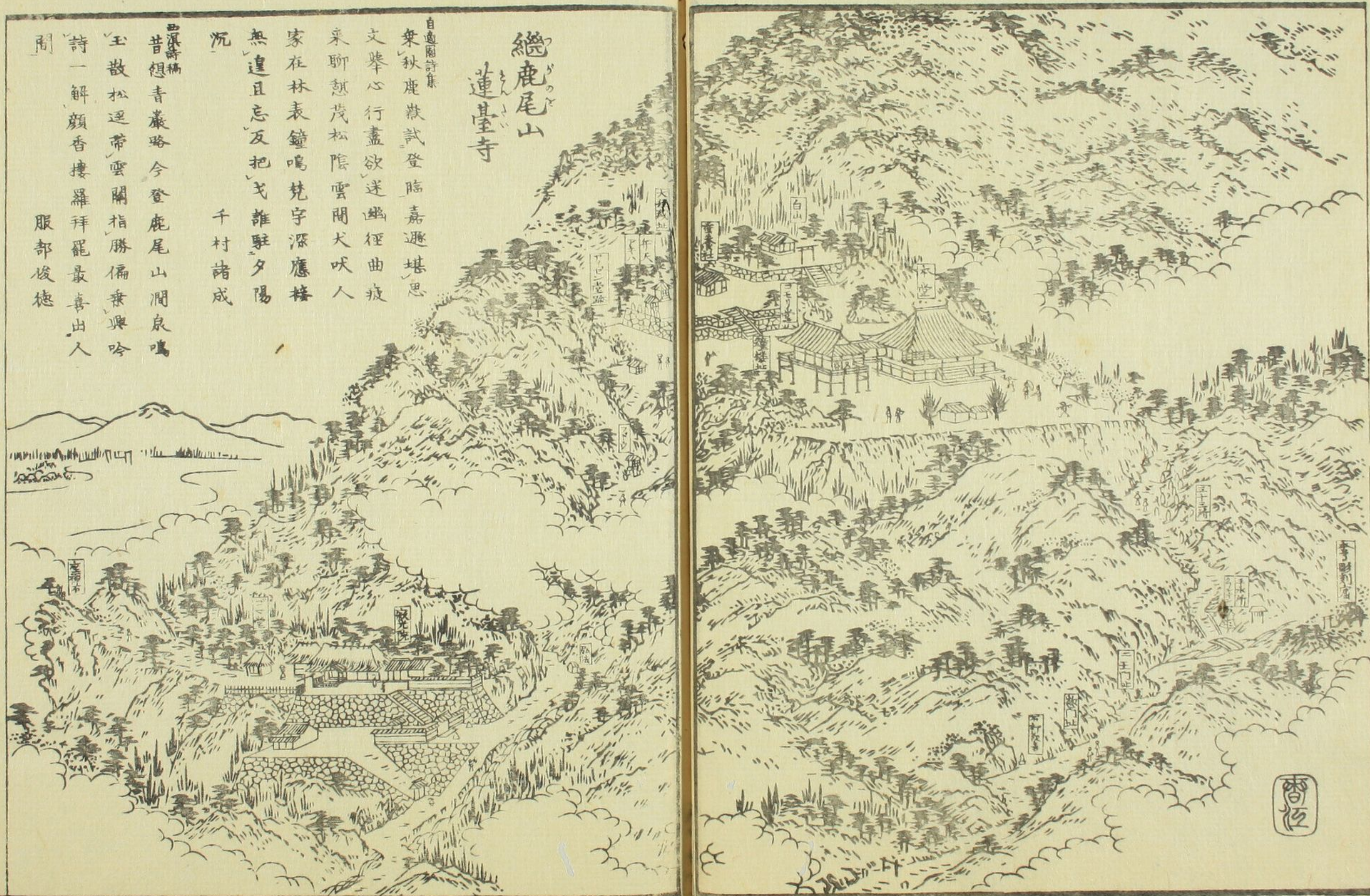
自通園詩集

乘秋鹿嶽試登臨嘉遯堪思  
 文攀心行盡欲迷幽徑曲疲  
 采聊越茂松陰雲間犬吠人  
 家在林表鐘鳴梵宇深應接  
 無違且忘反把戈誰駐夕陽  
 沉

千村諸成

西溪詩稿

昔想青巖路今登鹿尾山  
 潤泉鳴玉散松迳帶雲關  
 指勝偏乘興吟詩一解  
 顏香樓羅拜罷最喜出人  
 間  
 服部俊德



座禪石  
眺望



雲峰屹々石幾々  
大士堂高小補陀  
眼底獲江秋一碧  
渙舟點破夕陽波  
和田磨齋

筆山あり麻叶  
焼尾の山よまき  
くろくたにやくし  
延徳のつら毛  
田雀丸



尚玉鬼門の法護とて一美場なり抑當寺の由来と尋ふ亦郡  
 下野村小山嶺と業とて者わつて常に此山中と狩場なり或日  
 朝より夕まで得てたゞむむ谷間より一ツの麻涌り出せば  
 うんむく対するくひまてるに其麻の尾より光明やくやく照る  
 やまけり彼者よりごの思いとゆふくは千手観音の灵像  
 少くともあけり終に尚山小安置し繼鹿尾山と号けり今も前坂の  
 岩小鹿の足跡くびく沙より當ちハ古杉老松菴替して閑寂  
 云隠の古浄刹より中にも座禪石より岐産川と見下は光景  
 籠堂より西南の眺望眼界蒼茫として山水の美華端の及ぶ所  
 小わくは

**本尊** 千手観音ハ南國三十三觀音の一所なり出現の岩窟裏の中央小なり相傳へ  
 日本武尊化現して遊りたる像にて慶雲三年七月十二日出現し其時、津和野  
 とて、あつた麻のつく尾のくひまてるに其麻の尾より光明やくやく照る  
 うんむく対するくひまてるに其麻の尾より光明やくやく照る  
 やまけり彼者よりごの思いとゆふくは千手観音の灵像  
 少くともあけり終に尚山小安置し繼鹿尾山と号けり今も前坂の  
 岩小鹿の足跡くびく沙より當ちハ古杉老松菴替して閑寂  
 云隠の古浄刹より中にも座禪石より岐産川と見下は光景  
 籠堂より西南の眺望眼界蒼茫として山水の美華端の及ぶ所  
 小わくは

鷲岩  
 箕岩



未だ  
 未だ  
 未だ  
 恩文

箕岩  
 鷲岩



香

山

山

栗栖棧

えりくれ

えりくれ

えりくれ

えりくれ

山

和雄



山

山

山

山

古縁起書画の秋甚多  
とソドもことと畧す

梅花無冬藏  
三 人 有花即入門  
観 教 殊 香 雪 不 留 篇  
夏 日 游 繼 鹿 山 蓮 臺 寺 同 賦 其 勝 乎 贈 物 意 上

上方 六月 似 清 秋 平 楚 蒼 々 眼 界 悠 簾 外 遠 望 栗 山  
峻 欄 前 下 見 蘇 川 流 梵 音 響 處 噪 蟬 滿 焦 唱 和 時 鳴  
鳥 幽 終 日 松 濤 吹 不 已 納 涼 忘 暑 坐 林 頭 岡 田 新 川

佛殿 重々 聳 古 岑 攀 躋 一 夜 宿 祇 林 風 松 奏 樂 泉 聲  
近 露 葉 分 光 月 色 深 曾 有 化 人 停 白 足 能 令 長 者 布  
黃金 圓 通 自 具 真 如 相 半 偈 持 來 證 道 心

栗栖神社 栗栖村のりり本國帳の春日部郡正四位下栗栖地神とあり社より同集説  
丹羽郡有栗栖村然與春日井郡不接其地蓋別有之乎と云ふれど郡の遠  
たるは侍寫の誤り也三代實録貞觀十六年二月廿三日癸丑授尾張

栗栖山 同村のりり樹木茂りて多嶽の地なり中にも字カニカケをとりありり栗栖  
多し群衆て住居の人に石をくちまありり本州の山は嶽の多きは此の如しなり

木曾川 水源は信及も居津より出流ぬと傳て栗名の由も五十里の長流ゆて水勢をげ  
古木森々茂りて風景地も美なり更に蜀江の  
岩水もかくやわんわんたる

大吉権やとよとの川ハ 信濃の山の 山くろ

谷の系に 落つりり きほらわひつ ともくふ ちうれてはは

吉種とよとの川ハ 名もきき ちのてりり山もれ

尾活のふし りりぬ 吾はのふし ちのてりり山もれ

か山乃 里と隣と 百はぬ ちのてりり山もれ

谷とくし けりりぬ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

ちのてりり山もれ ちのてりり山もれ

虫鹿神社 前原村 延喜神名式小虫鹿神社本國帳小從三位虫鹿天神

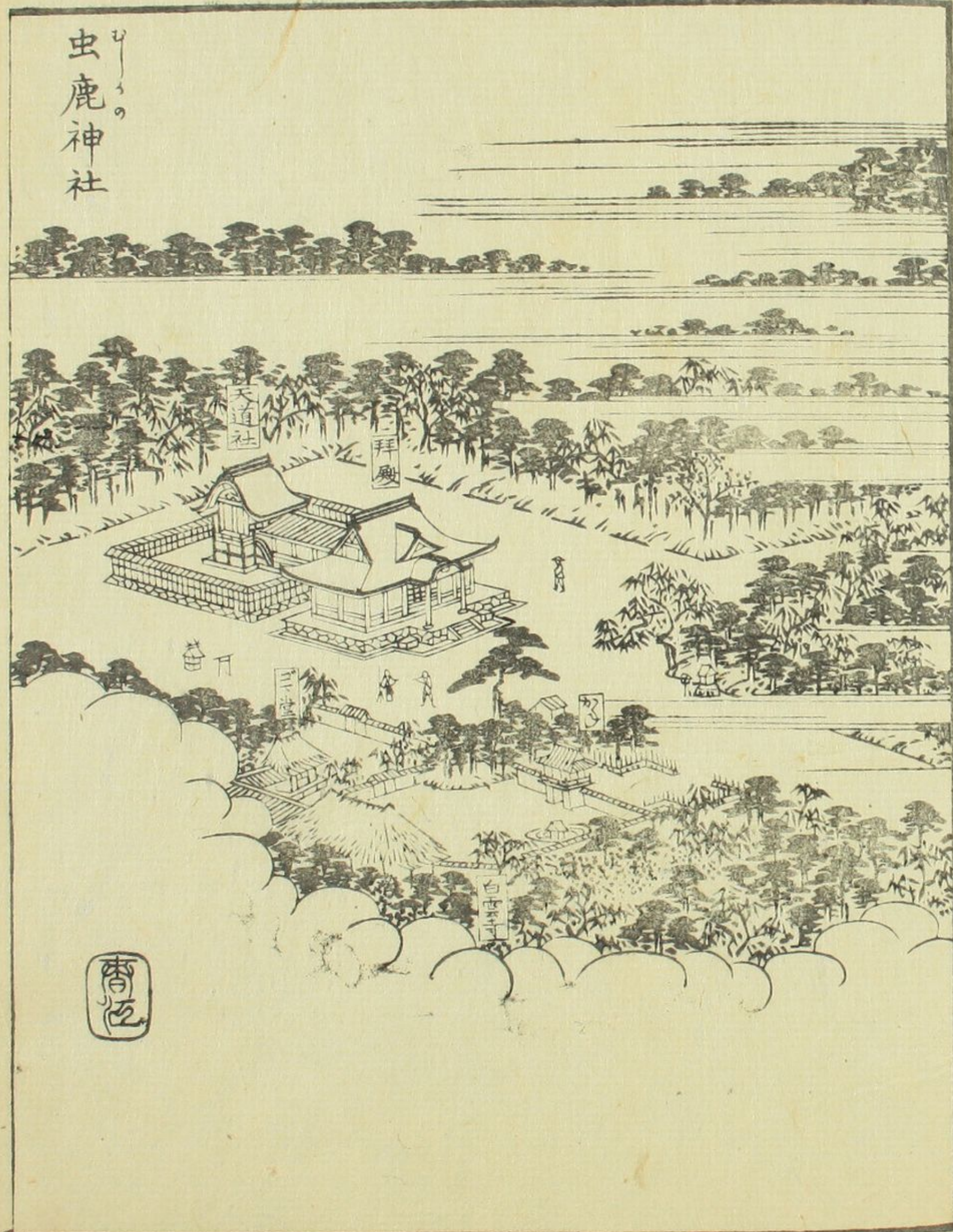
とりの官社之同集説小初坐虫鹿莊入鹿村寛永十年移村民於前原

造沼池之時遷座前原村とりのゆ後年ちのてりり今三明神

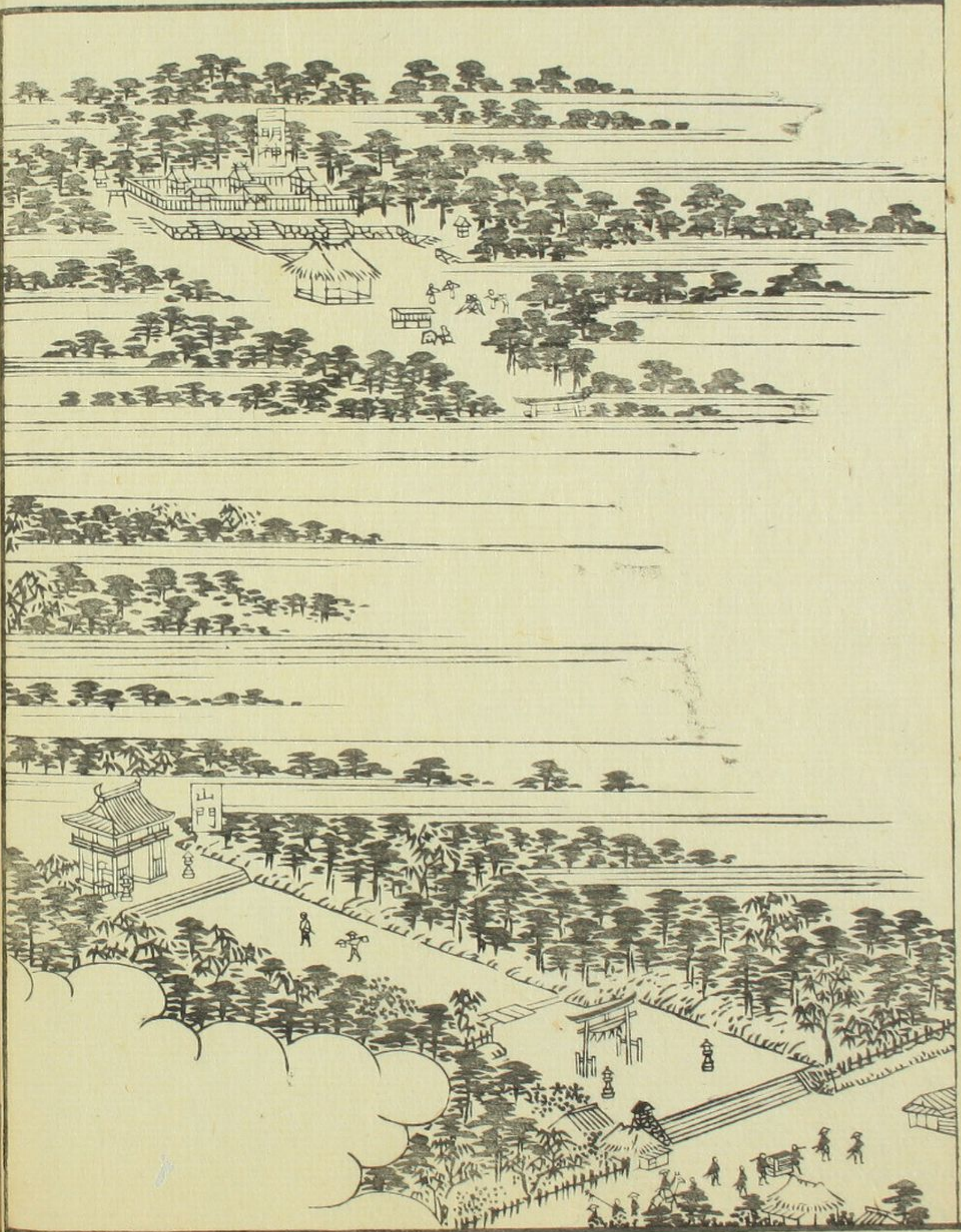
秋輔



虫鹿神社



香



山門

社と天道社と二所あり共に入鹿村にあり古社なりと云ふと云鹿の  
社名と称せし神神なり天道社の白雲寺とあり神明社の  
社人司と云

入鹿山白雲寺

同所あり天台宗中田密藏院末寺也昔行基菩薩の開創なり  
と云ふと云西午九月再建して天道宮の社勢と司とあり中興山白  
雲比丘の名とあり寺号とあり寛永十年  
今此地より天道社の宮寺とも云ふ 本尊 不動  
木像

橋爪妖火

傳へりしに橋爪村の農氏勘五郎といふ者或年の夏田水と引んとて青木川  
の田野に妖火と云ふもの宛延年間も四百餘年の星雲と云ふもの松の原文小い  
徳授寺の現住大陽和尚一傳と賦して母子が退福と宮に於て妖火の火火も其頃  
彼和尚の作なり鎮妖火頌并序文あり長ければことと略し偶の事と云記す  
四百強年母子魂隱憂相結託橋村江流今幸修眞  
福當下路門甘露門  
寛延三年歲在庚午八月廿二日

羽黒里

今羽黒村といふ寛正の頃河井坂久喜といふ者尾州羽黒と領知し  
蜷川出雲守掌なり 蜷川親元日記云々  
比良賀天神社 同村あり本國帳に従三位比良賀天神といふは平亮ハ  
事春日井郡の部小なるもの多しは付すに陶工もが組神とあり  
て景教の社地小未社の名ありて坐せり  
大明神の社地小未社の名ありて坐せり

妙國山興禪寺

同村あり臨濟宗天瑞原寺末寺也概原茂助義景大旦那  
大道真源禪師の開基なり義景の法号興善寺殿繁叟宗茂居士  
とあり寺号とあり則位牌 本尊 釈迦  
木像  
ありて天正十六年戊子とあり

磨墨塚

同村あり梅樹と桂とありとあり源をが殿の木の参道と表し  
原を馬の附會の況なり當所小伝を公の籠下概原  
同村あり水原の本宮山の北より川中廣しとあり昔は酒酒て小石  
の多き河原なりとあり

羽黒川

同村あり太閤記に卯月十四日羽黒の古城津普請社付堀尾茂助山内  
萬捷の糸目物に記し付同廿九日馬と納り云云稲葉通邦が参考長久手記云十四日  
秀吉羽黒の舊墨と修堀尾茂助吉晴山内伊右衛門一豊伊友掃部助祐時に守りし  
又奈良高田城の山城と築き稲葉右京亮  
貞通長谷川辰五郎秀一とあり

羽黒古城

同村あり太閤記に卯月十四日羽黒の古城津普請社付堀尾茂助山内  
萬捷の糸目物に記し付同廿九日馬と納り云云稲葉通邦が参考長久手記云十四日  
秀吉羽黒の舊墨と修堀尾茂助吉晴山内伊右衛門一豊伊友掃部助祐時に守りし  
又奈良高田城の山城と築き稲葉右京亮  
貞通長谷川辰五郎秀一とあり

羽黒合戦

起り合戦小及び 東照宮信雄とありて尚ふあり  
ぬ三月十七日太閤方の軍將貞徳の魚山の城を攻め武藏守長一  
三子修騎と卒してお尾村の八幡林小陣よりこれ 東照宮沛方  
の軍將酒井左衛門尉奥平美作守松平又七郎本多豊後守松







諸鑿神社  
永泉寺  
羽黒古戦場

尾張国丹羽郡田世四町  
賜夫人従三位橘朝臣諱

諸

鑣神社

同村小川にて謝訪明神と称し延喜神名式丹羽郡諸鑣神社本国帳小  
鎮諸鈿座諏訪大明神社とありて官社なり天正十三年の棟札ありて奉  
樂田とつり村名ハ天文以前よりつりつり名なれば諸嶽ハ只此の小名なり  
神健南方命とつり例祭  
七月廿七日祠官河村氏

烏森天神社

同村小川より本国帳集説小従三位鳥杜天神柳庄樂田村とあり  
本國帳元龜本鳥杜とあり貞治本に鳥杜小作共小鳥の誤字

景德山永泉寺

同村小川より臨濟宗  
京都妙心寺末

當寺ハ天文元壬辰年の建立野呂惟

久の関基りて泰秀和尚と開山と次和尚ハ信長公と交り厚く常々  
當寺と来りたり其は平手政秀の菩提のゆかり一寺と建之  
にさ旨命とありて泰秀中けハ我子沢彦と開山とあり  
わつし名則其意小す也政秀寺と創建とあり其後天正年中當  
寺の諸堂悉く兵火のかりと政秀寺五世徹源和尚先師の古  
蹟とありと力とあり再建とあり寺にありて中興とあり  
寺傳小あり  
同山泰秀ハ大徳の才ありわつしに諸あり雲水僧教百人集り居  
其中ニ琉球の傳ありは傳ゆかりの彼地ニ真禪寺とありと建之

樂田城址

同村小川より織田陣正徳の尉久永築て居候す其後津田下野守信清由城  
と攻取り持城と次永禄年中信長公信清と退ひ坂井右近政尚守り  
ら其後多々多軍の時秀吉公  
の陣營とありとあり  
太閤記小羽柴統前守秀吉尾州表出勢

傘松

同村小川より古松ありこれハ修長云  
ありとありとありとあり

本尊

河内  
本像

湖山水

同内の池とあり  
修長公名付ハ

の趣ハ津川云蕃允岡田長門守浅井田宮丸秀吉のつり小誅せり  
と事と不便と思ひ其勢懐と散じんがなや先勢濃州垂井  
赤坂巢股も小着陣しけは後陣ハいま醍醐山科宇治勢多也  
小充満と大坂の御一左右と侍居り前後其勢十二万五千の  
着到とありとあり秀吉卿三月廿一日大坂とありとあり宇治瀬田を小  
扱し勢も次第小あり廿三日四日ハ先勢犬山の下大豆戸の渡と  
越天山五郎丸也に陣取り日と逐て後陣の勢あまもあつとあり尺  
地も更小なりとあり所小秀吉也廿七日午刻小川と越多ひと  
犬山の城小ありが未刻小樂田羽馬也まが諸大名より召つ也



秀吉公の軍勢  
樂田村の野陣の圖

らとあつて出小牧山小討し向城多く搦まりんもの評定あり二重堀  
の要害一の先手うれば日根中守舎才弥次右衛門子供五人  
其勢二千餘騎置り岩崎山の城ハ稻葉伊豫守子息右京亮彦  
六同名右近勘右衛門其勢四千餘小松寺山の城ハ丹羽五郎左衛門尉  
長秀其勢八千青塚の城ハ森武藏守其勢三千竹内久保山の  
城ハ蜂屋出羽守金森五郎八其勢三千其外里より里嶺より峰  
とどき小陣取けし夜ふけて毎火夥し事ふごりうとらん

茶白山

同村のうら青塚小あり家山より樂田城址の条にちる天正十二年  
の合戦ハ秀吉公ハ登りて物見し

茶白山 覽古 尾山 山 村 良 由  
孤岡 如茶 曰毎々 統原 田 戰 場 為 青 草 陳 迹 二 百 年  
憶昔 豐臣 氏 一 時 威 赫 然 一 怒 掃 扶 桑 再 怒 掃 朝 鮮  
而今 安在 哉 駐馬 咏 暮 天

教順寺舊地

小峯と法へりあり東光寺も同村あり今東流小橋す

梶川弥三郎高盛舊居

同村にあり 將軍長公の恩と志と刑意と押し守治の偵察に橋籠り  
信長公怒りて其湯と責むられし三郎守治川の先陣と心づく同十八日の未明に稻葉  
侯父子とて二万餘騎守治川と戦ひ先陣と備して比れうさるるとり

義昭將軍 槇鳴と退去ありのち信長公柳山に居る今日の先陣ハ誰ハか  
評しけりとはゆひて梶川 流之即にお違わすト仰られし果して其通うりハハ  
一々善てあまいたんしく感しけり高盛の戦ハ美濃の八神の修を毛利輝元助成盛の内  
室より其子毛利全右衛門 廣義大坂清退治あまに供奉して武名を流へり  
村の常福寺に同人寿像の画幅あり文禄丙申仲秋此丘月翁の讚あり且其後ハなれて吉雅  
うり佐上と弟 扇と坊と座しるが改月代わりて髪うすく糸髪とふものや  
武威あり

奈良志天神社

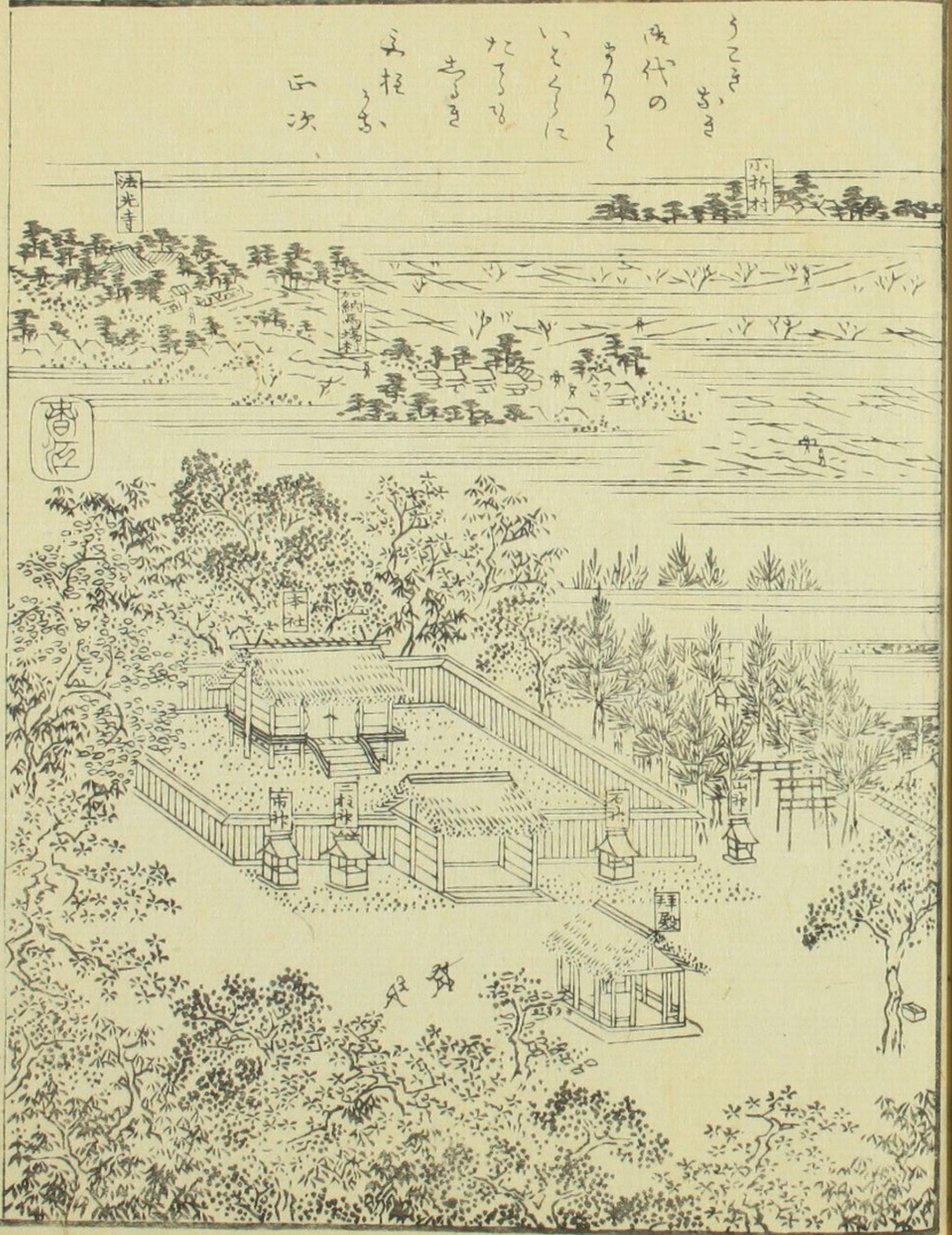
長橋村と御供所村の間にあり 本國帳小従三位奈良志天神と云ふ  
村名も此社の御供所なり

堀尾帯刀先生吉晴宅址

御供所村小あり堀尾中務少輔吉久の嫡子初名と仁王丸と  
い其後小太郎又後助と改むせれつと程よくあるが  
おとそ 采女ありけしハ佛氏助と名はる秀吉公小舎しる年の時より戦場中  
とらるの彩衣後 神君小仕ていし 戦功多し秀吉公いまふ本下友吉郎と云ふ  
の清馬也よりおより小を郎と扶持し所の戦場ハも召しとる其源 近江の信人 浅井信  
前守長政と人佐の本の所と追出し江原と押成し信長と攻めたり 長徳 堀尾と  
さんと江州 横山の城より出法しけるより 秀吉急ぎ信長公の居る小徳及政軍の  
城ハ小太郎と云ふ 其名 進めりし其海浜 横山の城小向ひ浅井が 候の兵の首と  
れて秀吉に献ず 秀吉大に喜ばり 別 改阜 召連は信長公小右のむのち上ありけしハ  
此の清 感あり 友吉郎ハ名譽の若者と坊より心 若年より 敬殺万誘の中ハ一誘  
此の 訓 斤候の多と討死首尾よく 坊より奉 澤ハ二双の勇士あり 今より 信長ハ  
仕 忠勤と勵むごとく 腰物と下さる 浅井 久政長政ハ江州 虎御前山小谷の  
城小ありて 往來の乃路とがう 狂威と奮ふ 其の 信長公 朝倉 義景 遊哥のころ 越前 國小向ひハ  
浅井 父子 勢金と内通し 前後より 扼しと付むとすなり 天正元年八月



うごま  
 小折村  
 法光寺  
 法代の  
 うりり  
 いとくに  
 たつら  
 ちんじ  
 正次



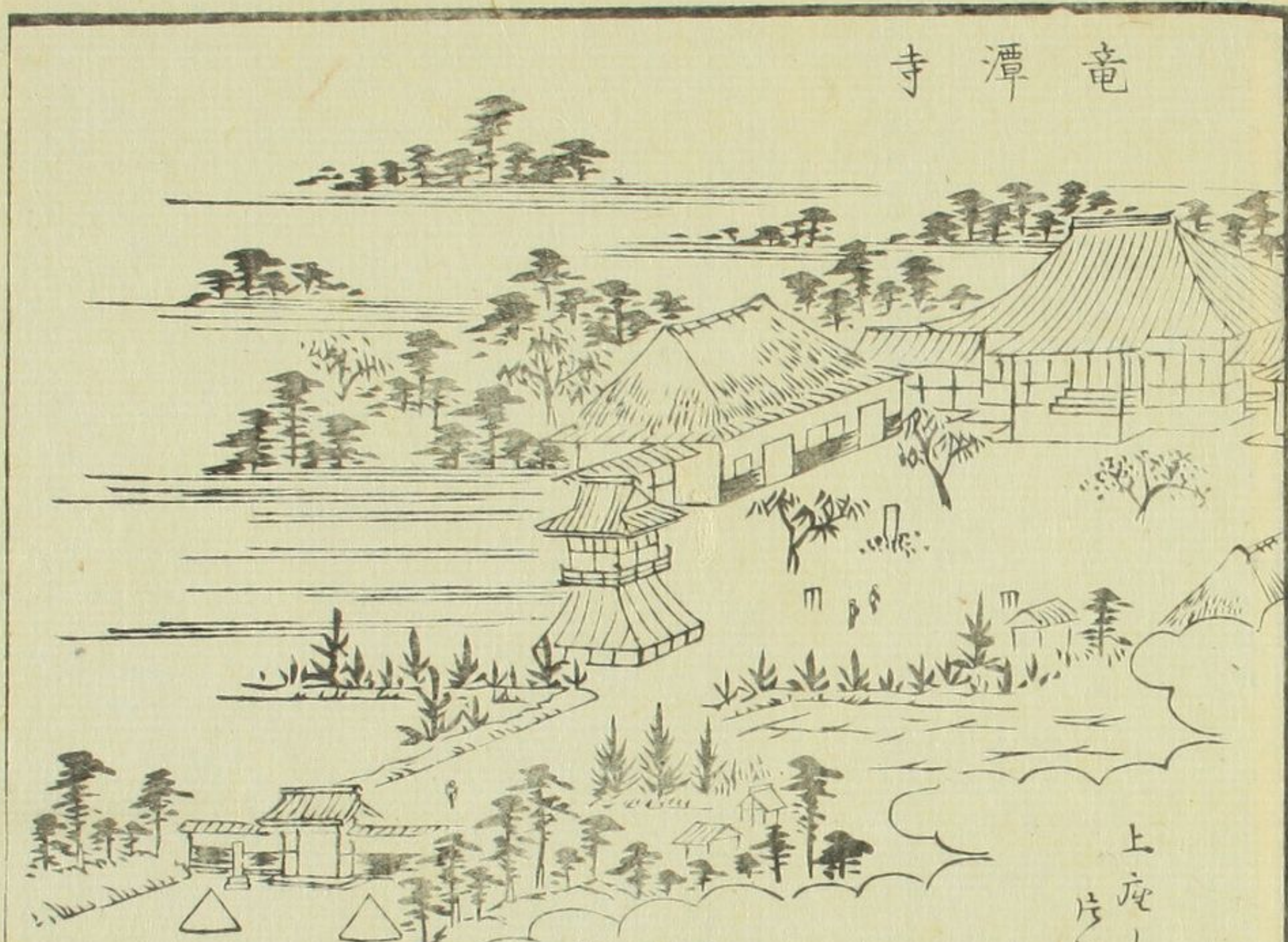
千代もつはる遠家  
 大のやととと  
 大の山の葱茶酒  
 大地の保命は  
 小のおつづる  
 幸々  
 玉君もまり又  
 府下及びとま  
 兵隊所まり  
 て人の物も

神明太一宮  
 井出神社  
 銘酒千代宿  
 店





竜潭寺

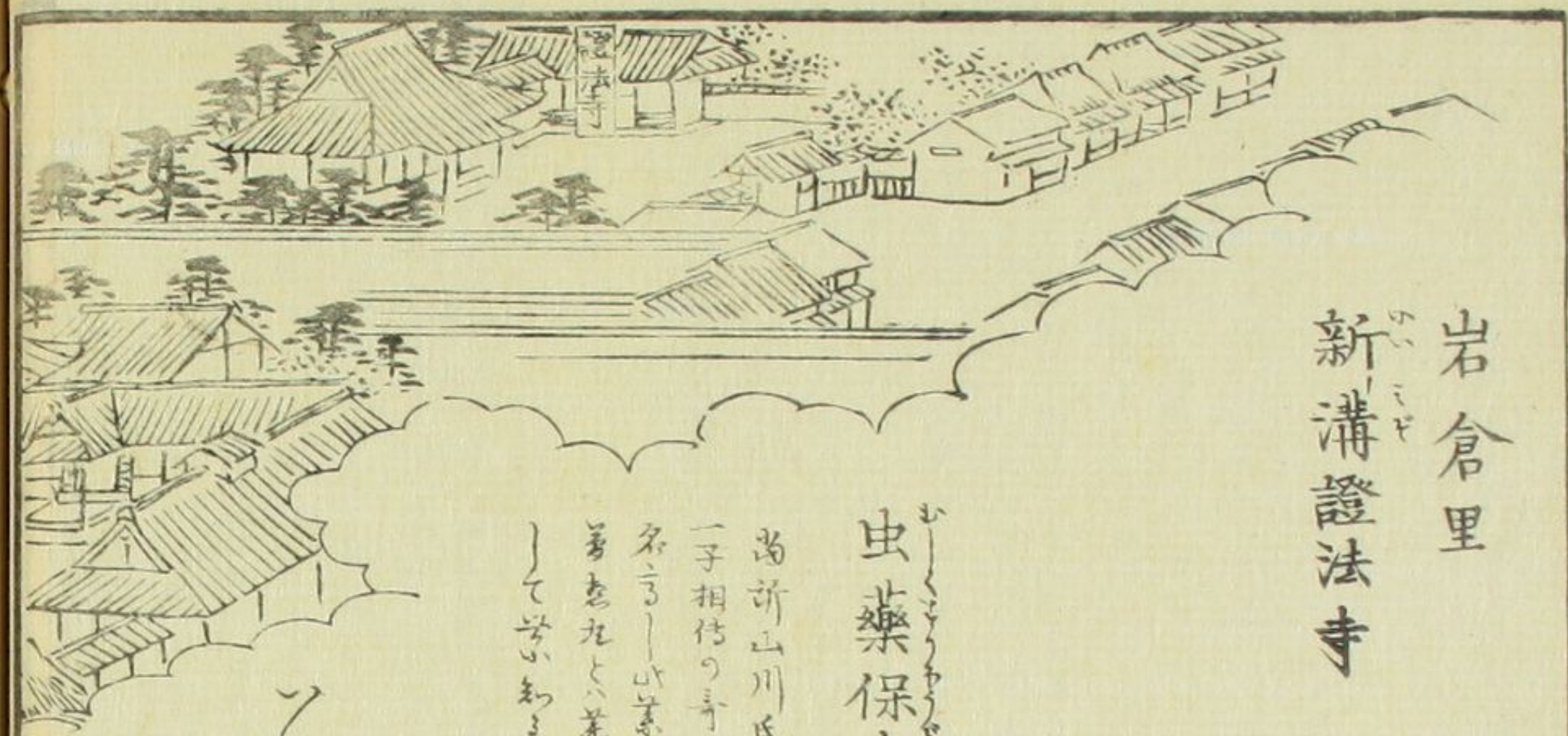


上座  
片神楽  
水仙花  
寺陽

竜潭寺ハ建雲山トシテ白坂雲興寺の  
末刹あり永正二丑年津田氏の本願心  
僧本興建立一ハ光寺トハ後天正十四  
成年尚祈の味三歳田伊勢守佐安今  
の祈ハ尚地トシテ竜潭寺ト改号シ  
トシ修ス



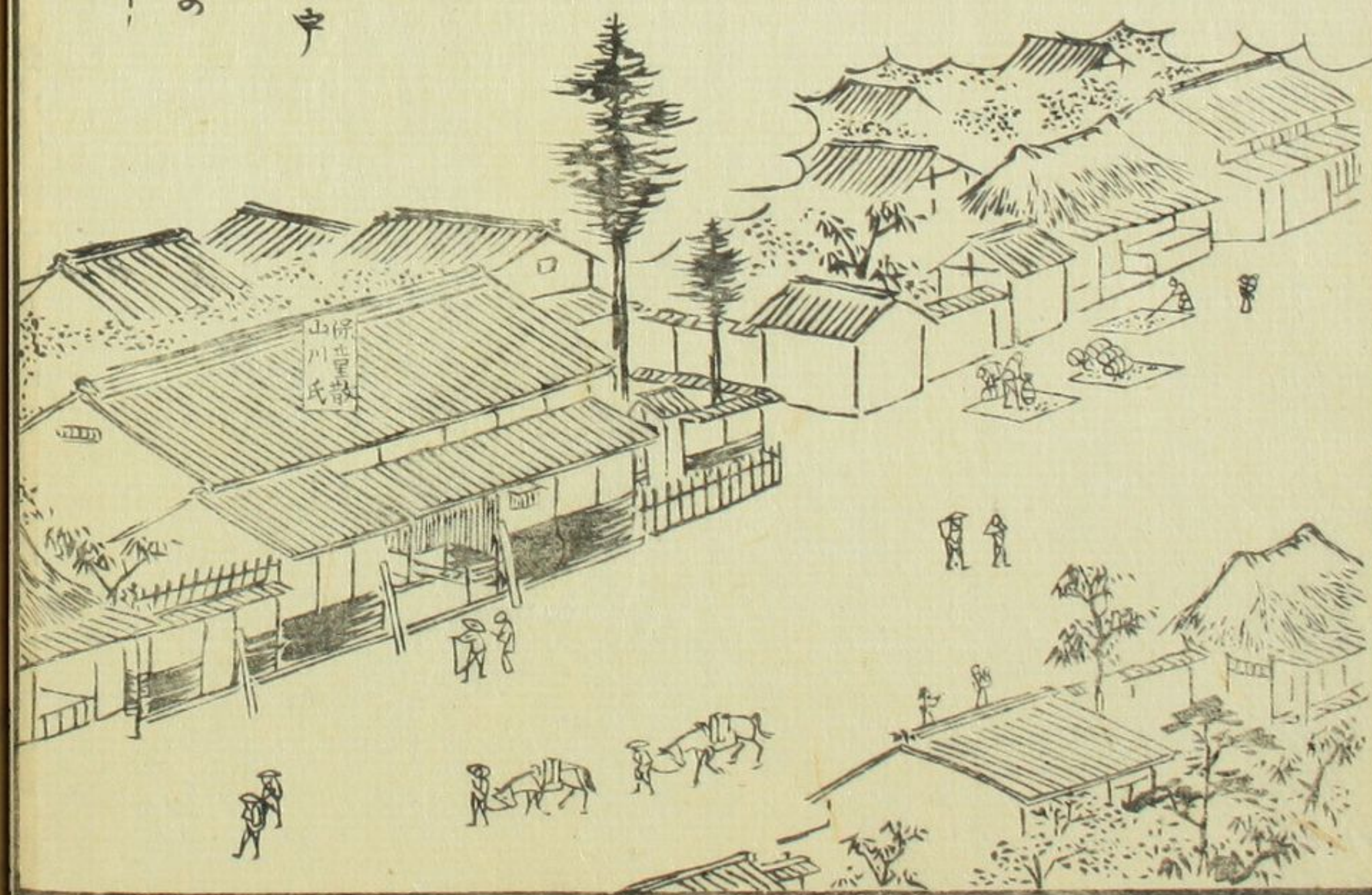
岩倉里  
新溝證法寺



虫薬保童散

尚祈山川氏より出  
一子相傳り予業一して  
名一ハ業と法明の  
弟志丸トハ業店ハハ候  
トテ学知カ物業カ

東中  
さうり  
とまかく地  
の







新編師 豊原堂主人寫

草木萬葉  
 輕春天秋  
 冬露雪豈  
 消殘何果  
 成人損閣  
 胸急々豚  
 飛入蚊眼

右伊勢守  
 信安自讀







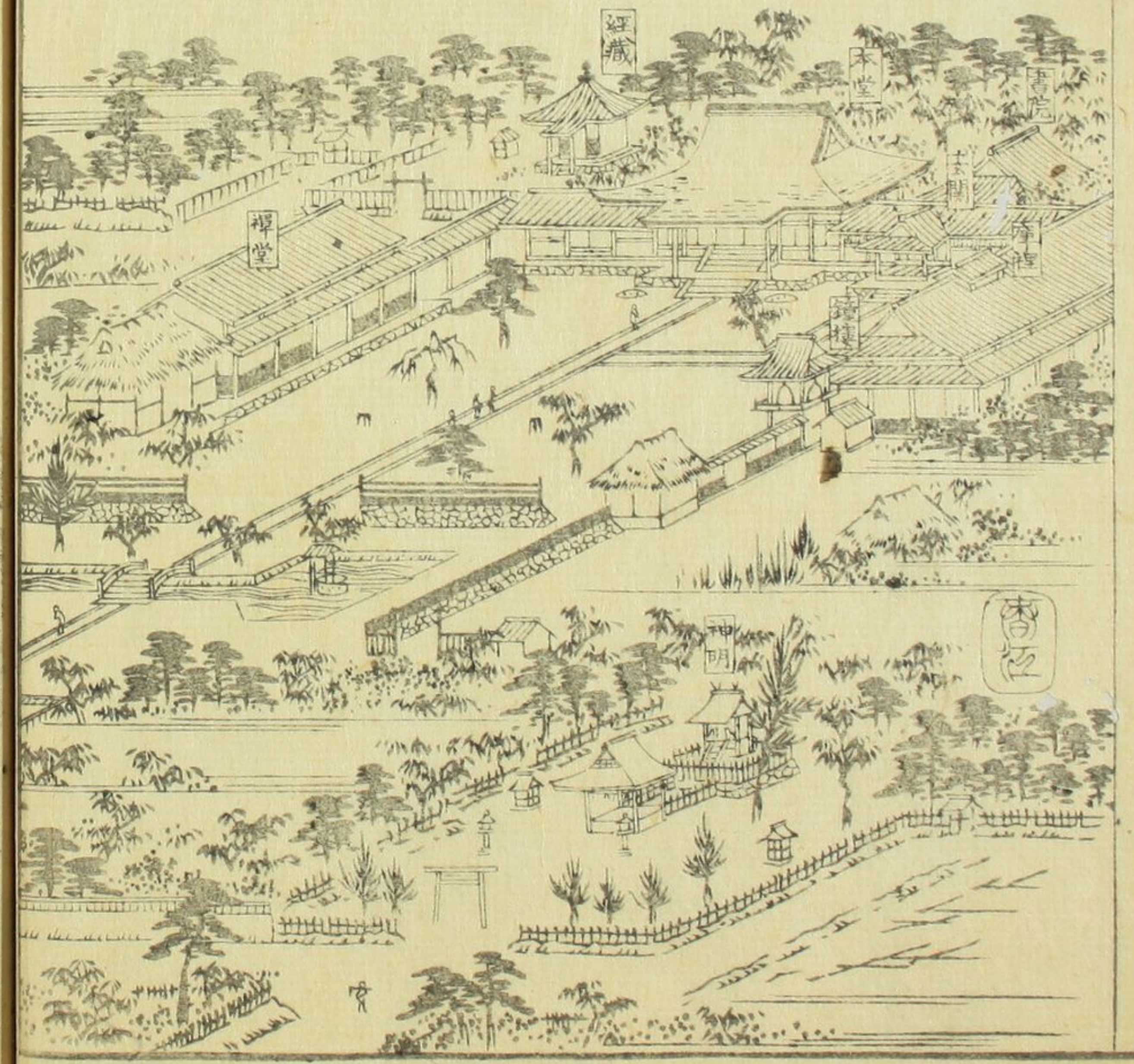




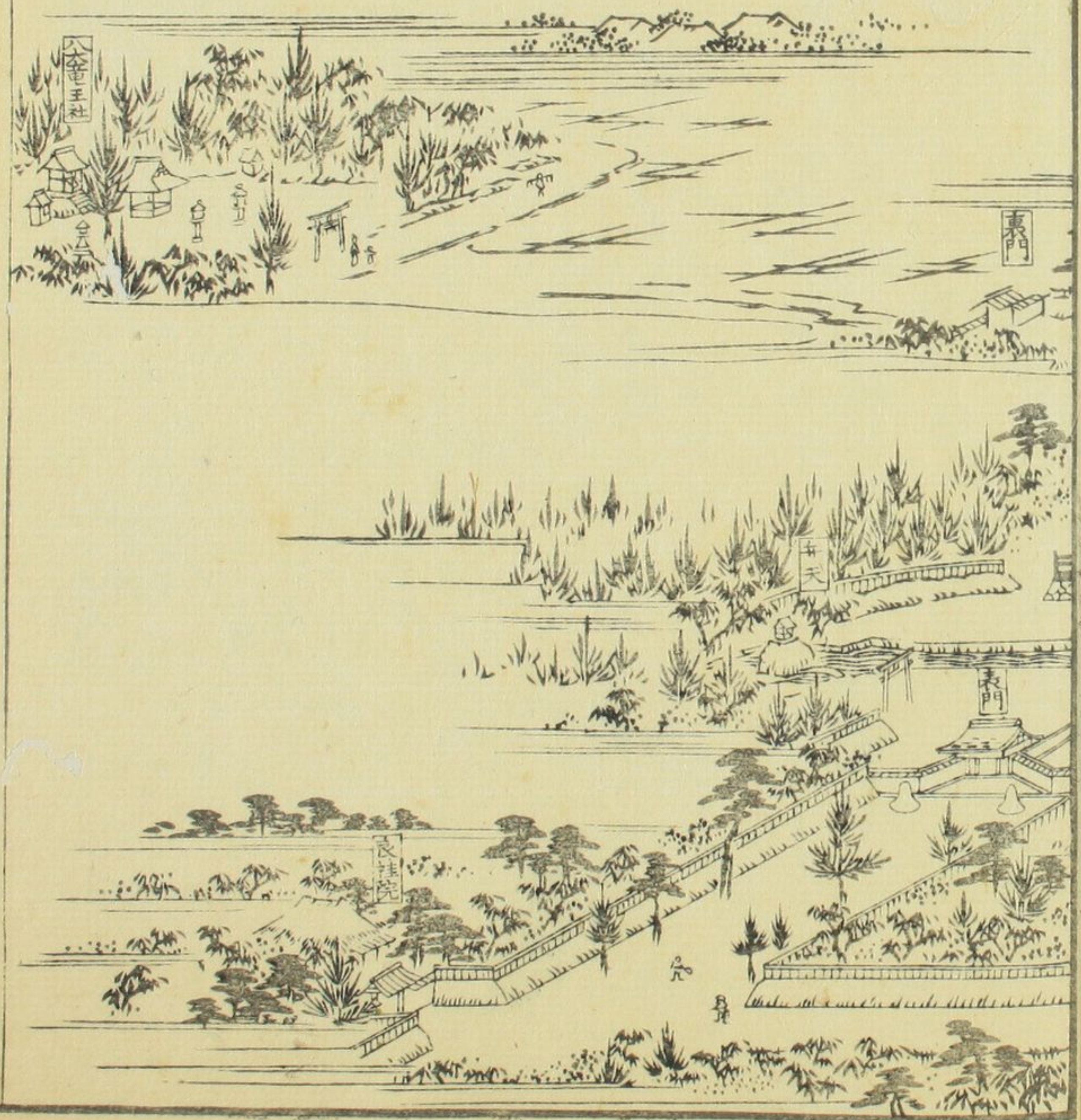
久昌寺

一自聞清梵  
 便知炎暑微  
 雨添山色爽  
 鳥送夏雲飛  
 老衲殊無事  
 浮生得所歸  
 桔槔將動處  
 晚坐足忘機

禹臣



八大竜王社



銘曰 小折之影 陟彼高丘 富士不遠 累々塚幽  
 松林接景 猶記昔遊 西顧淡海 東指參州  
 爰問絕信 以祀武侯 魏又此境 李白憇休  
 靈國旌旗 日照戈矛 耀榮一時 神君傳翰  
 天拂二年 壬戌二月 旬 沐譽千秋

八大竜王社

同村小なり創建の年月未詳と云はれ八月十六日  
 戊四月生約氏造宮の棟札あり例宗八月十六日

埴原氏宅址

同村小なり埴原が家老なり甲斐國の氏民なり所履礼して南玉小なり  
 湯次の子南玉少と云はれ居けり信を云々せしむるなり今も跡あり

桂山久昌寺

同村小なり曹洞宗 至徳元年八月南所の住人林某法名  
 名在石万松寺末

真觀等の本願として實峯和尚開創一慈雲山竜徳寺と名けしが  
 乱世小象徴せしむる文明年中生約左京進家廣本奥と其後生

約家宗の女右大臣信長と小娘として信忠信雄岡崎三郎君の御  
 薦中として之より母堂病卒の後南所の新地として此地を

茶毗して其法号と久菴桂昌大禪定尼と名づく其居地の嫩の桂

二株ありて久昌の法号なりと云はれ其夫人の香花の

場雄山和尚として中奥として永禄九年山号寺号を改む

○本尊 釈迦の鎮守弁天社 運慶作至徳元年 寺室 本堂の扁額及び聯、東阜心  
 筆より長刀一振むり実峯和尚座持せし大蛇まつて焼けられし和名ひそかしく切敷

蛇刀と云 塔頭 良桂院 天正元年 僧良桂の建立

村上山般若寺

同村小なり曹洞宗 南所久昌寺末 文明五年昌山法師遠来して真言

院より境内般若寺をのこす大和国生駒山の鬼取茶師の法をうつして開きし其像を  
 い茶師の鬼取の名をのこすやあちの門ありしを鬼取の教の怪也山かきし其像を  
 と斬伐ししが其像のこすをいふるに其像の教の怪也山かきし其像を  
 と切付る法ありて取おともかきし其像の無吉の能くしるに五輪九と名づく  
 て生約家の

櫻雲山常觀寺

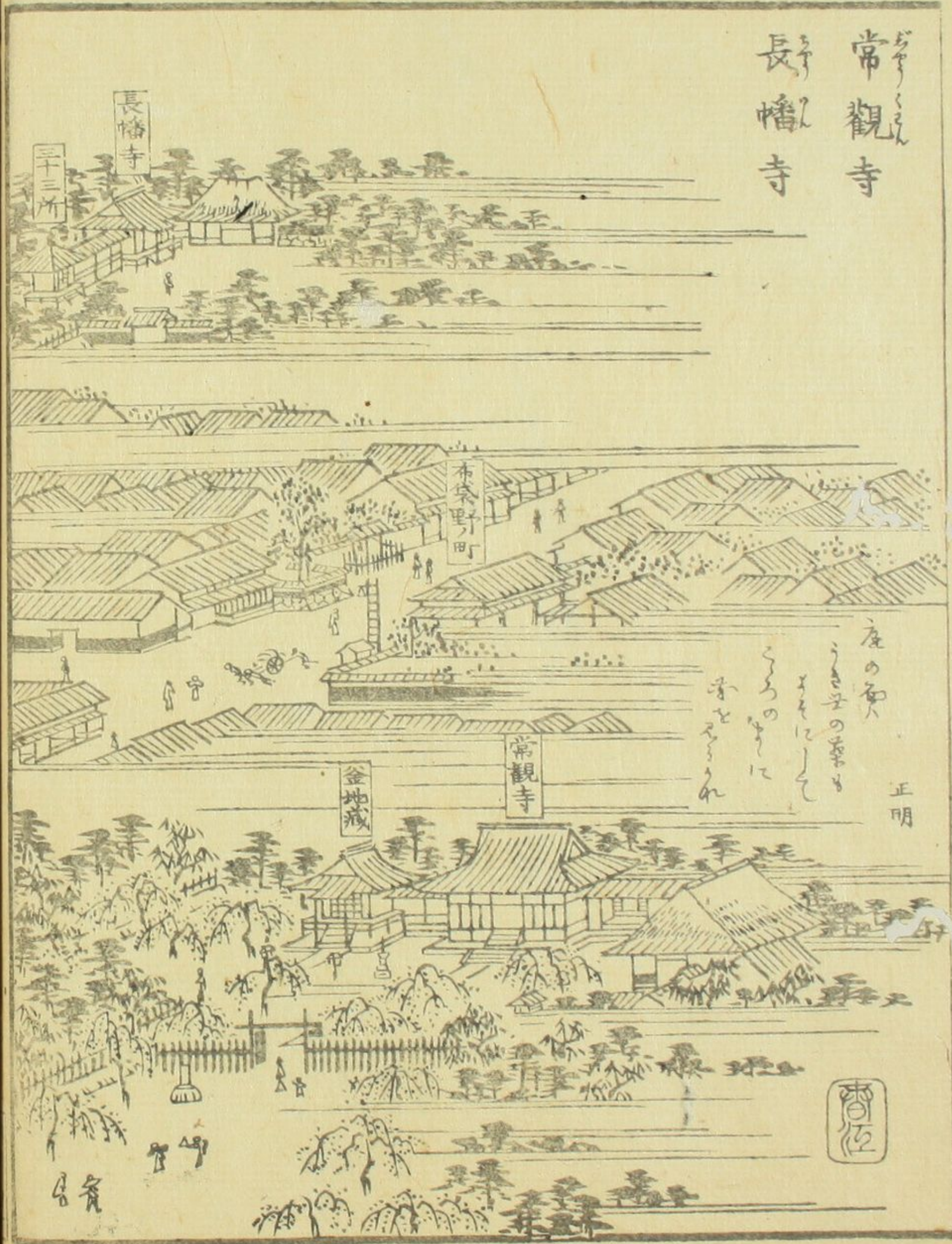
同村小なり曹洞宗 當寺の開基は古くして年月知り

かゝる永禄元年大庵和尚中奥す本尊地藏菩薩の仁明天皇

の御時鑄より洞像として世に傳はり世に凶變わんとして

ふみはけ像汗と云はれ流るがや一南玉六地蔵の一祈りてたふ

常觀寺  
長幡寺



泰治の人多しむうけさ像と盗み渡岐國小原ひりて歩碑之洞窟  
 小湊んと口と一むらり威嚇と示して夜々怪異と傳へり  
 ぶと人恐怖して本國小原へいけ其地の言京天神の初友は嘉瑞  
 と感し鰐一口と様一株とけさ像小湊へ送りて今於處も  
 小わりて具銘小讚州山田郡十河郷高原天神鰐口應永十三年七月  
 十六日とんりひさ像金の上小立せりる容うとい俗小金地藏と

福次境内に搦杖株わけて山号の祢むうけさ花の須は神小群集せり

稻置神社 新本村小あり延喜神名式小稻置神社本國帳小從三位稻置天神と云ふなり和名抄小丹羽郡稻置本村とあり

とある社あり命は垂仁天皇の皇子少て日本書紀古事記等にも見えり中世天道山高麗寺との尾信社とあり實保元年社も寺も老翁郡八幸村より一々村字本の天道と祢は前編りて今と合せりて社曰比の山とて稻置社の

搦栗御厨 勝栗村あり神鳳抄小尾張国内宮上搦栗御厨とあり内宮下搦栗御厨とあり

昨年中の尾張解文も請被停止号有藏人所召例貢進外加徴漆拾餘石事右漆丹羽郡土産也例貢進藏人所召三四斗也而所徴已以巨多也云々今い高郡の漆産する所は漆島より二三十年、漆島小漆の事古書にみえり信長公甲府の武田家の漆とむりれりて甲陽軍鑑に元龜二年西月下旬小織田信長より

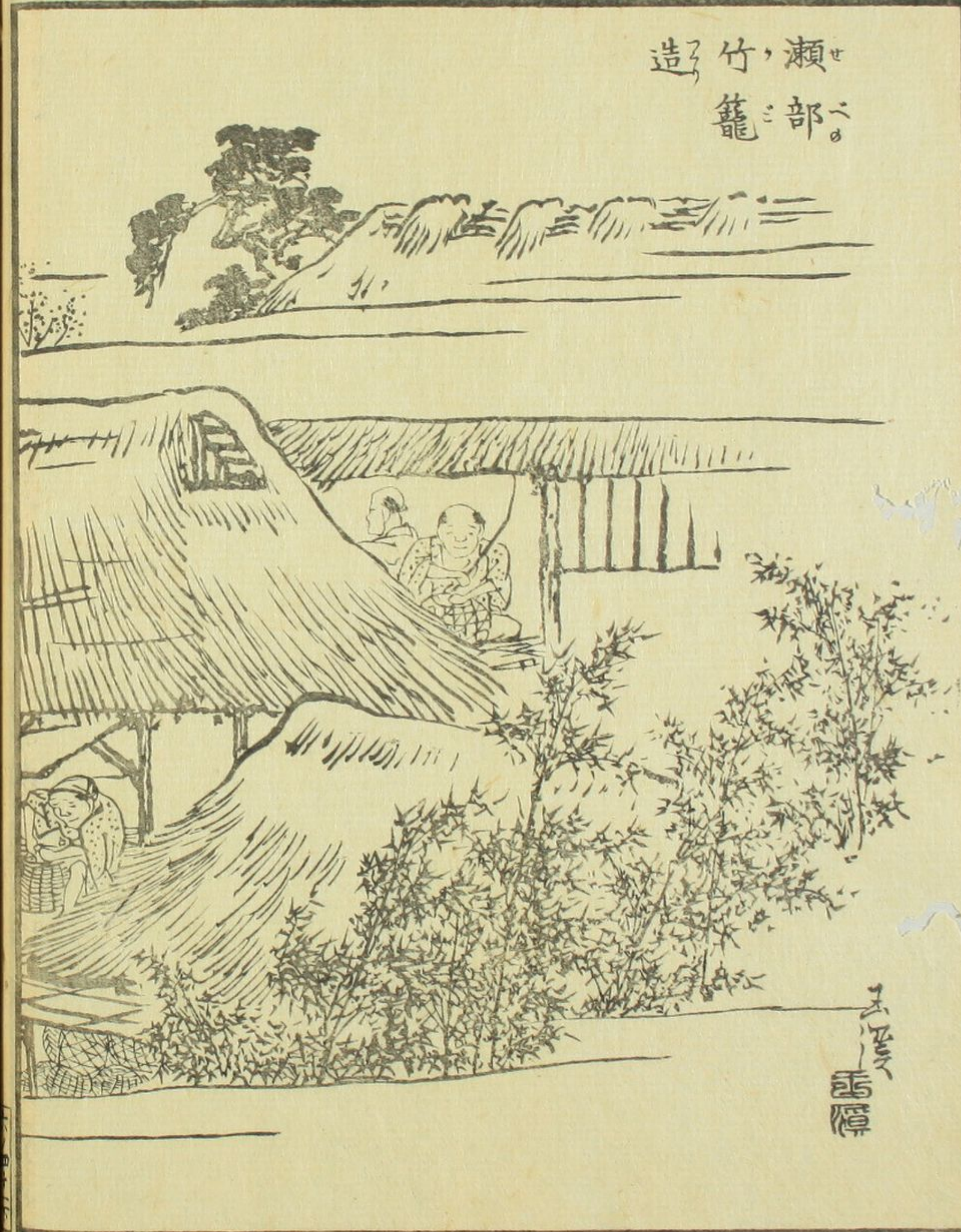
香印



市を極々  
寺娘ハ  
おの家  
梅裡



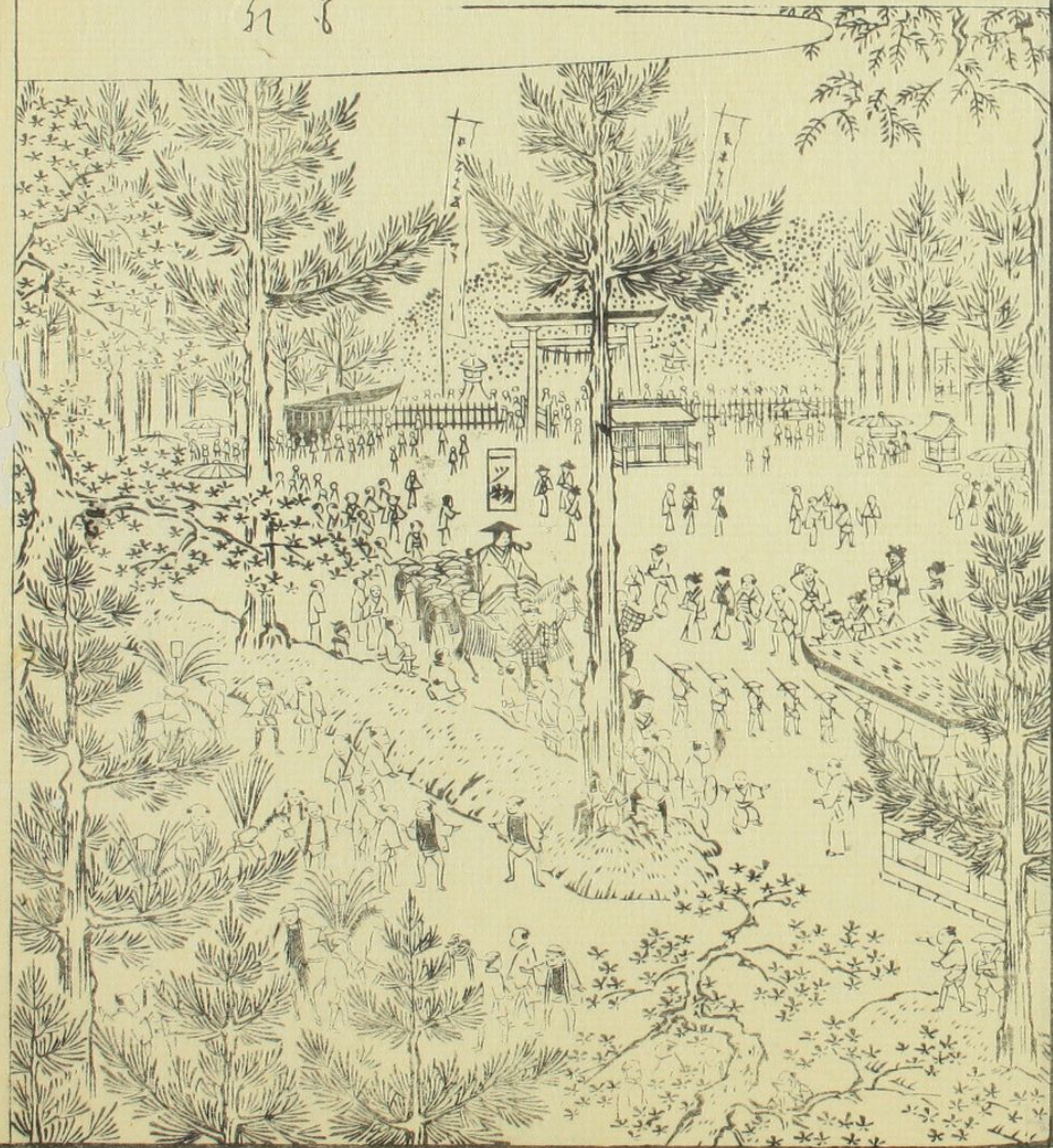
瀬竹造  
籠部



去  
香  
燗



杉の  
まきの中  
る  
旭湖

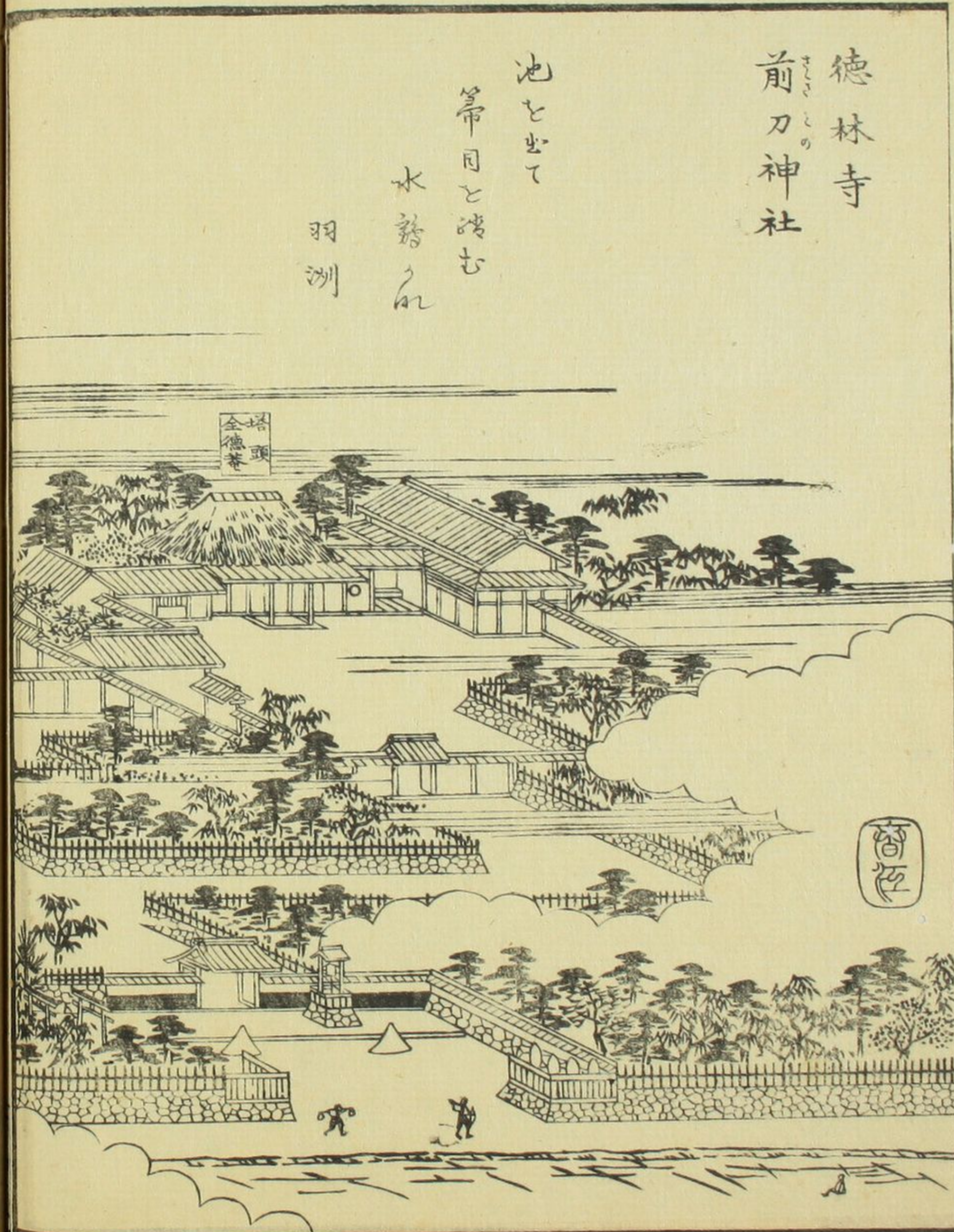
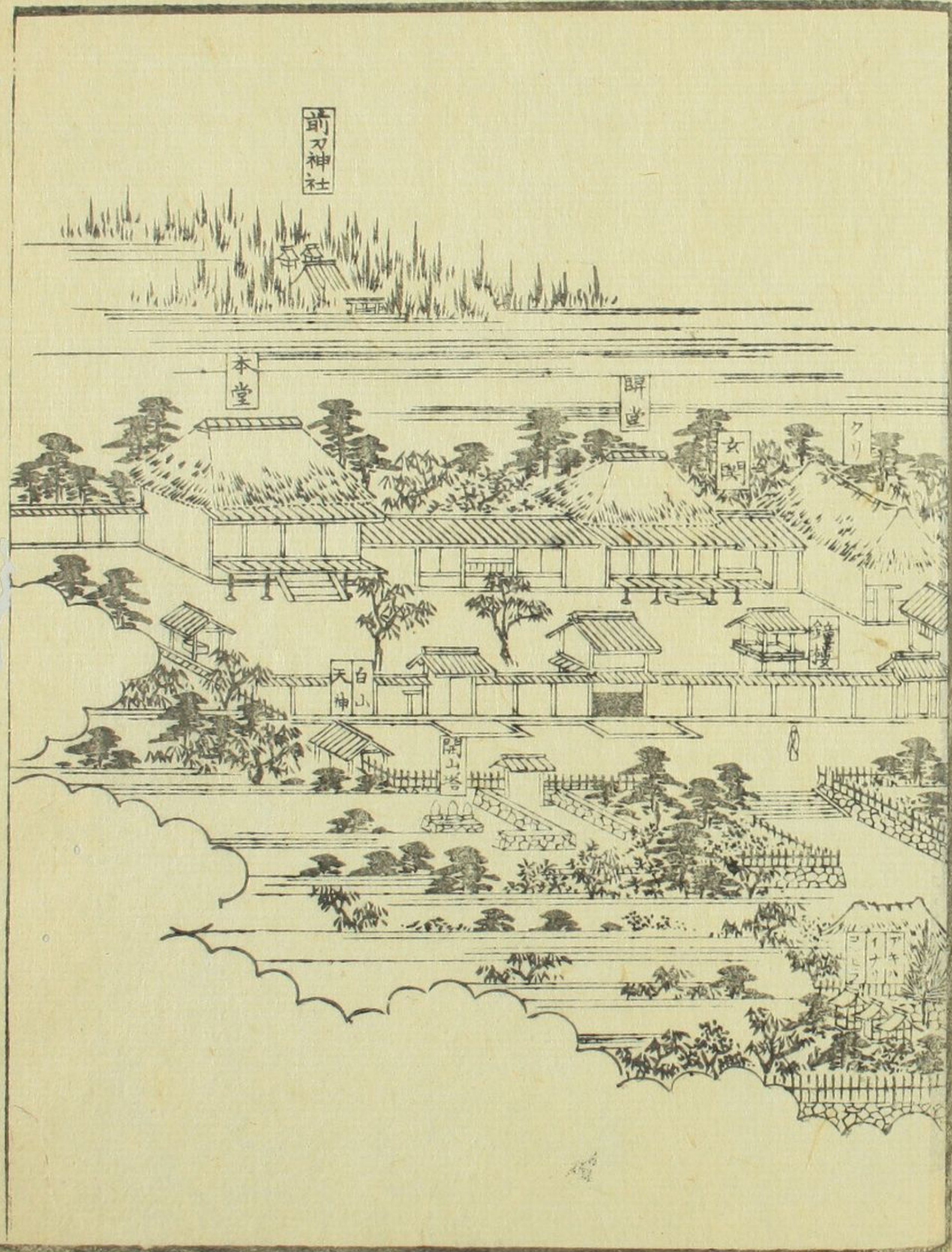


力長  
若宮八幡社  
祭礼の日安良の  
了物と幸後中園









徳林寺  
前刀神社

池と出て

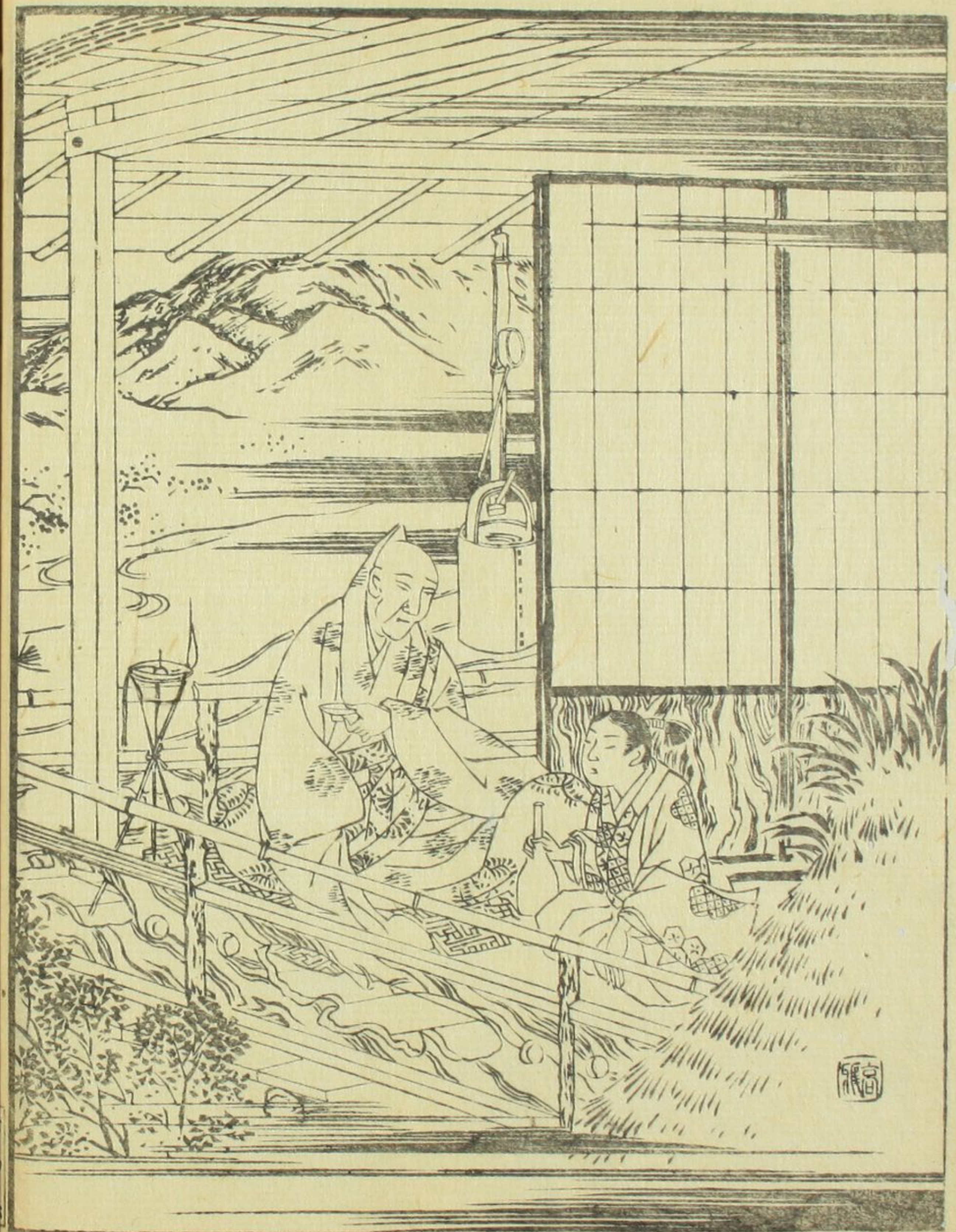
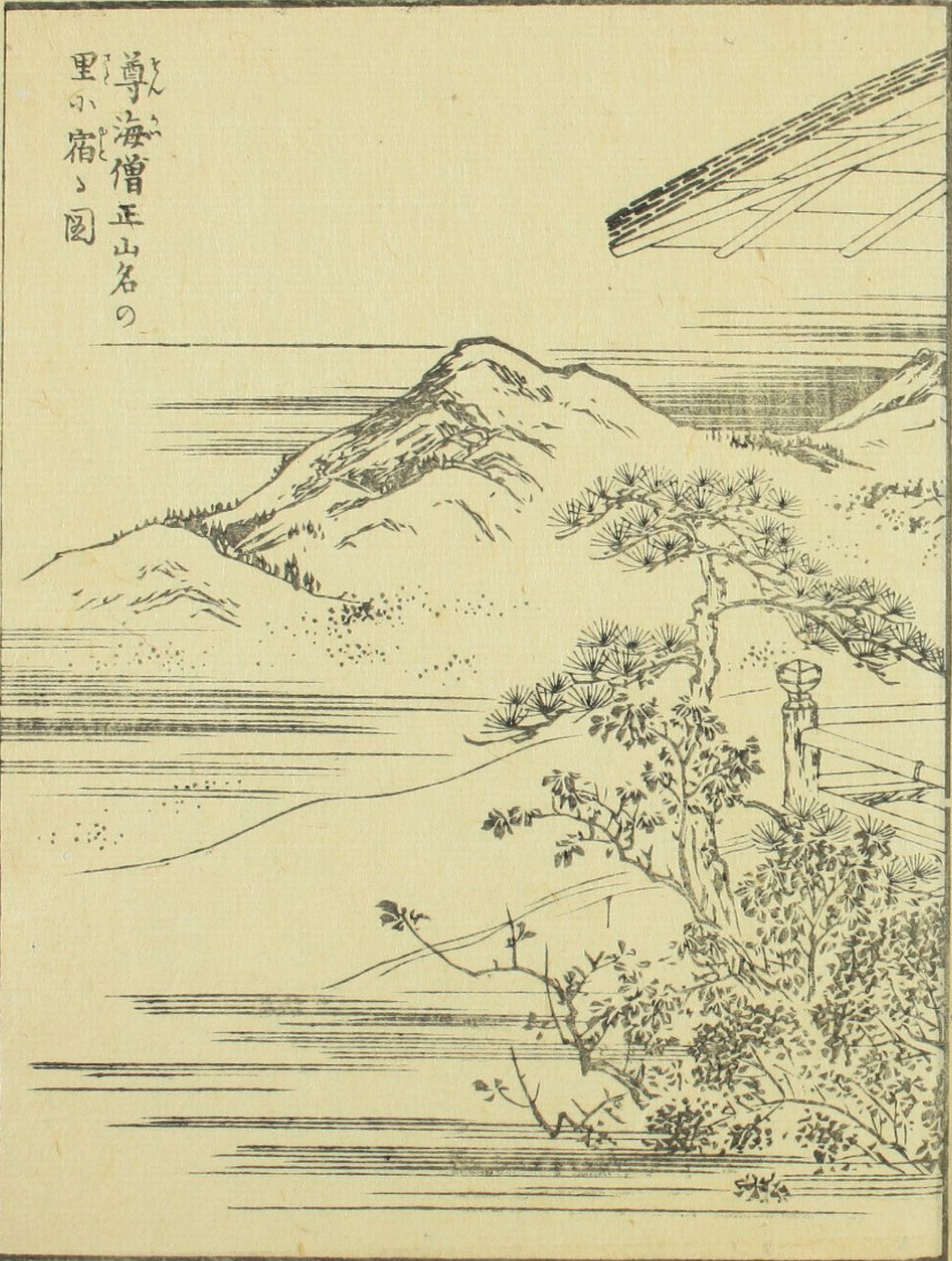
第目と清む

水務の記

羽洲

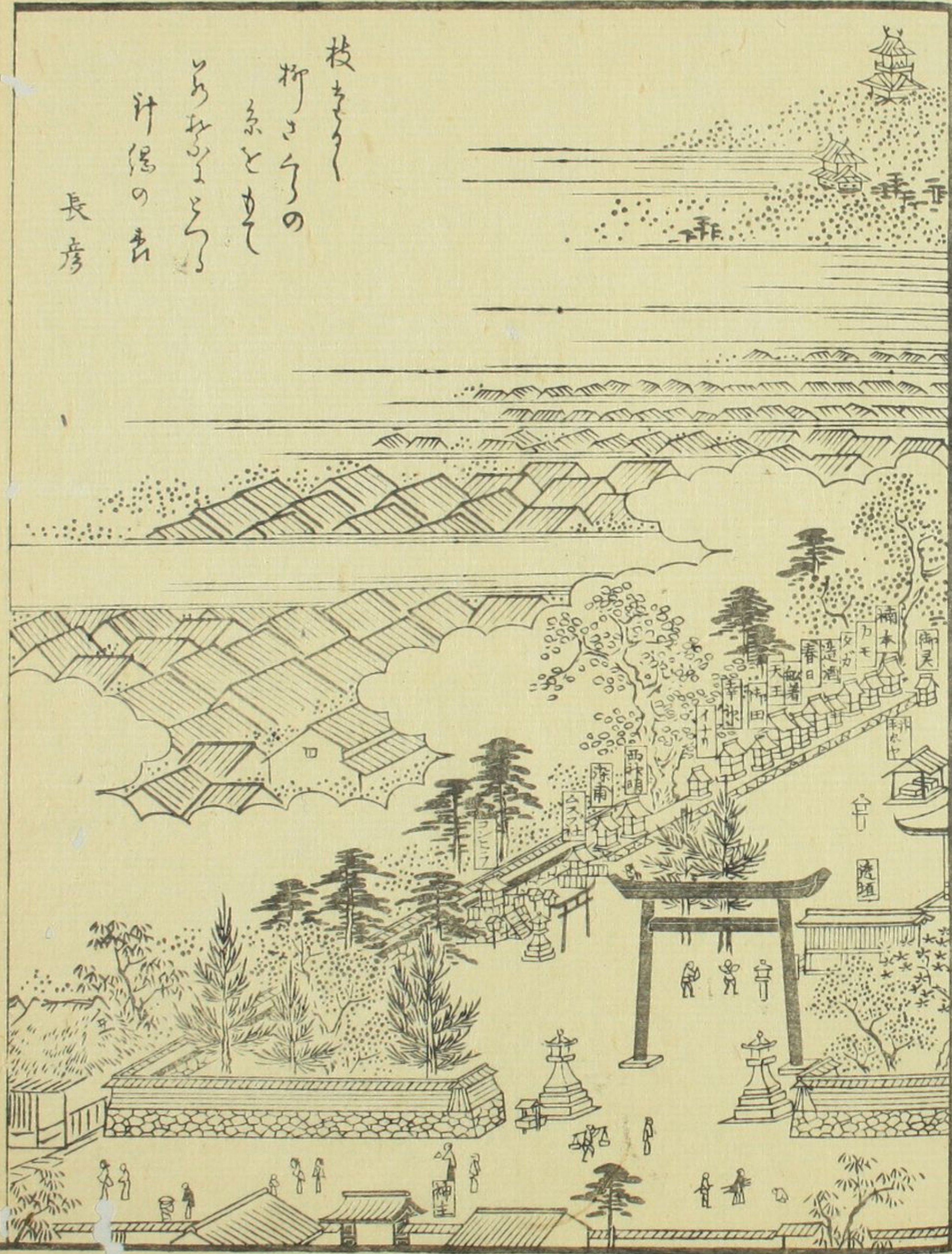
百五

尊海僧正山名の  
里小宿の図

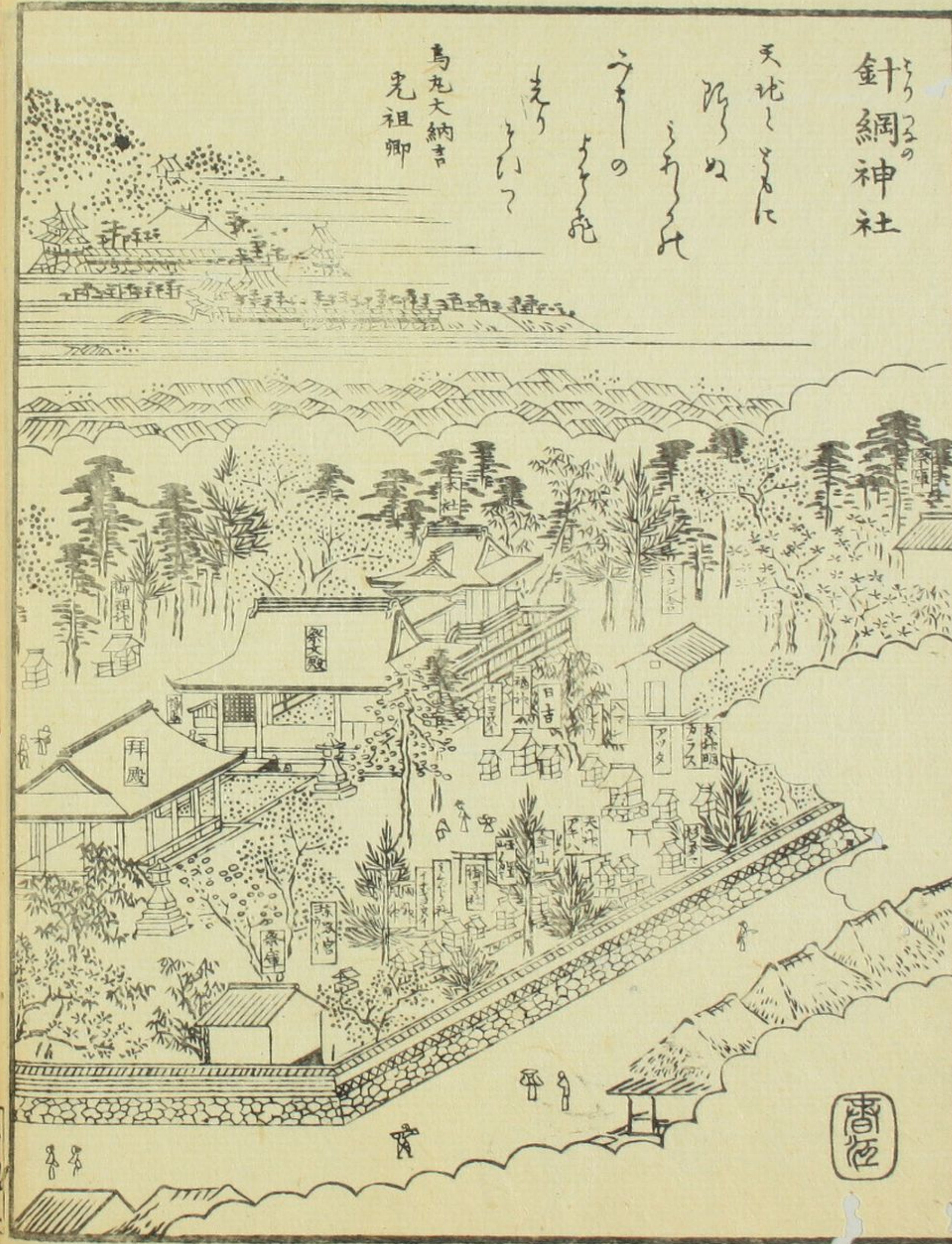








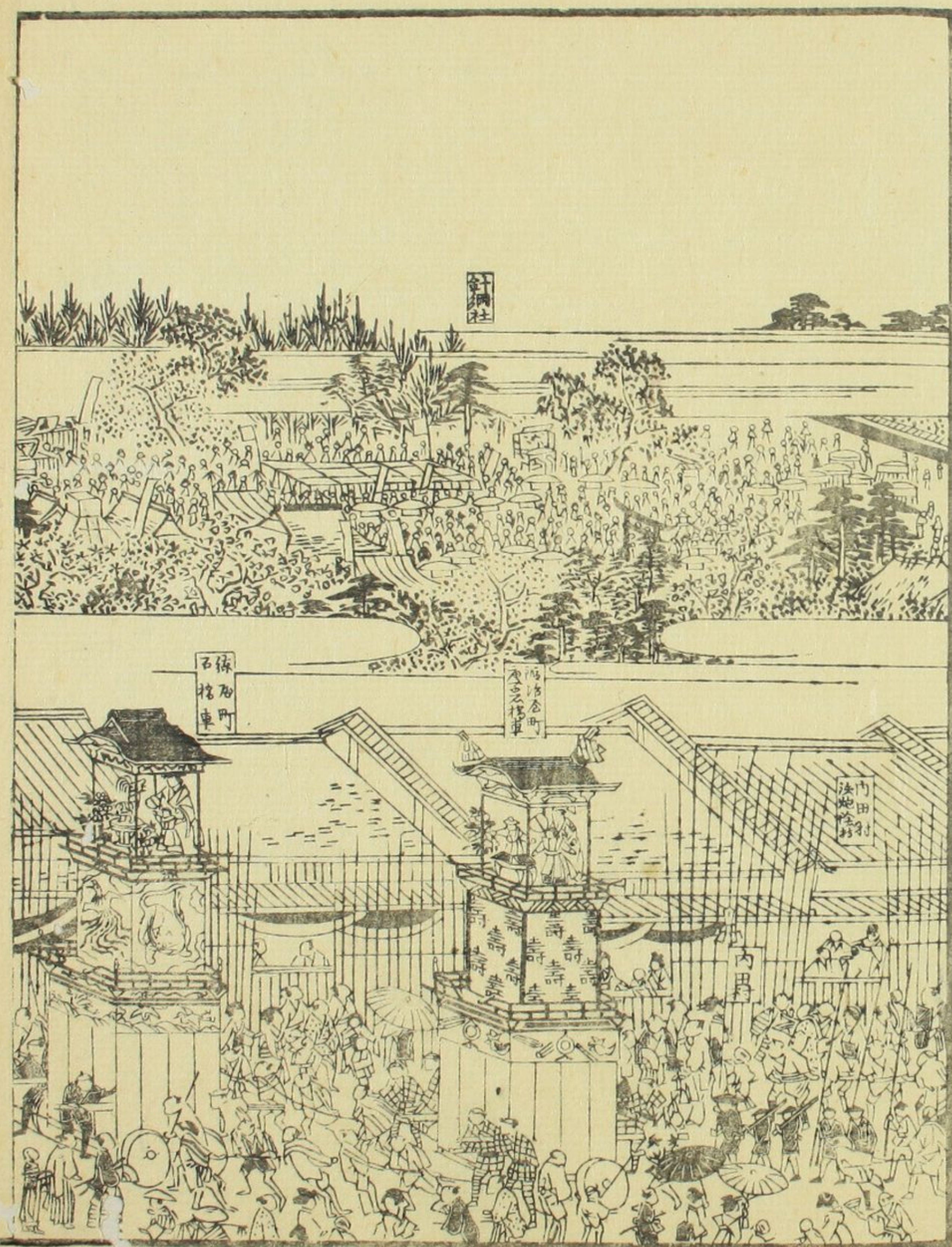
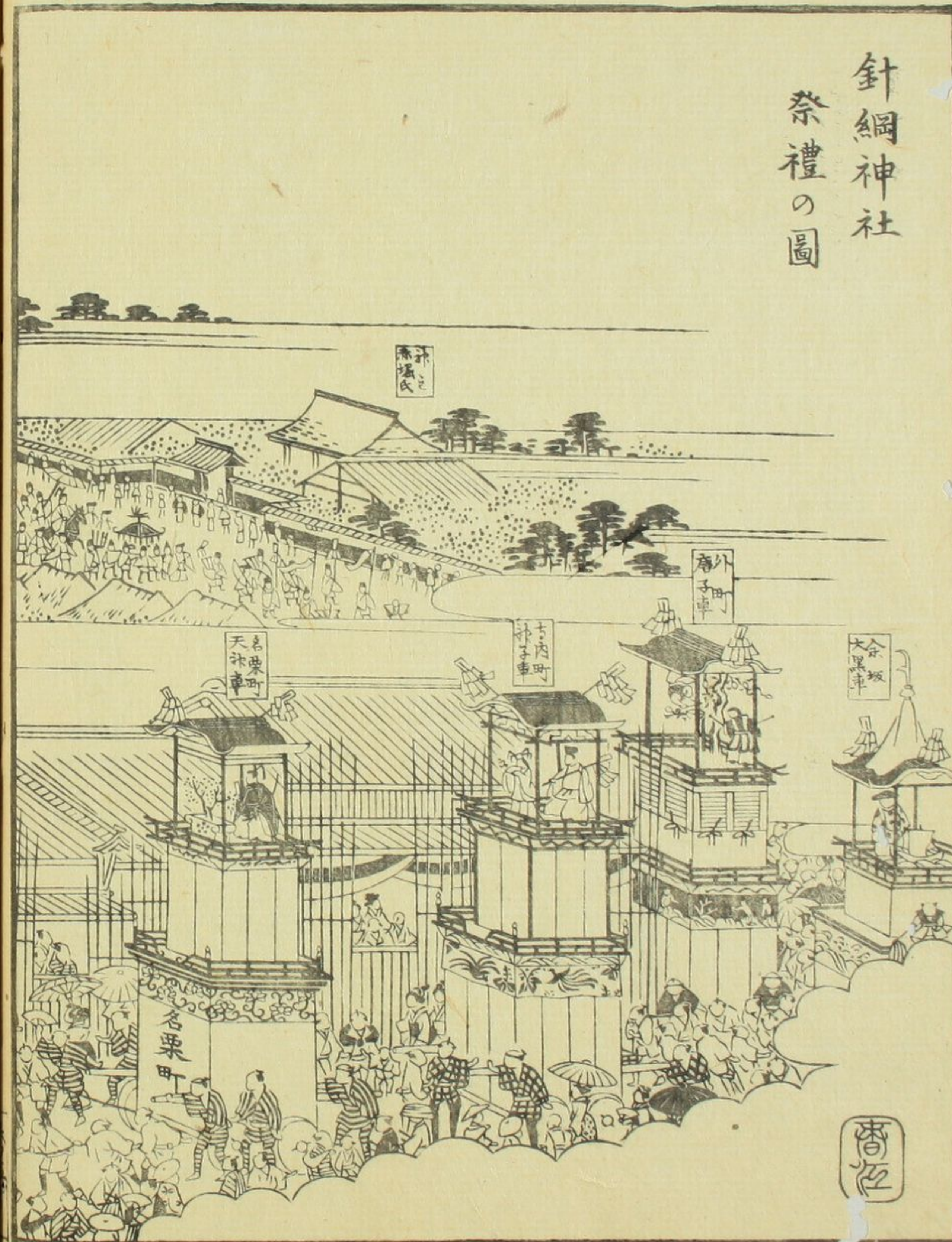
枝まき  
 柳さくらの  
 糸とまて  
 とあやうとら  
 汁徳の表  
 長彦



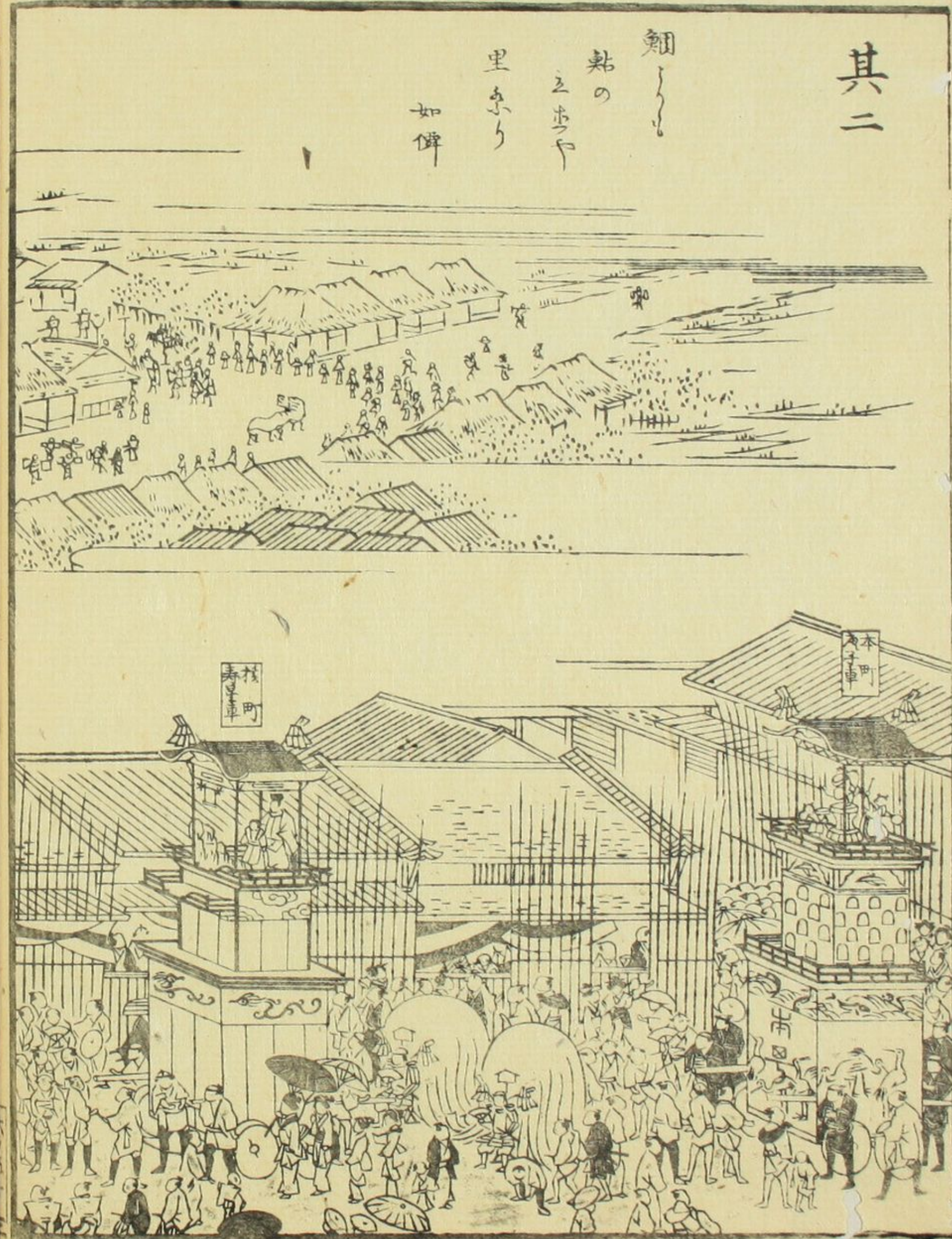
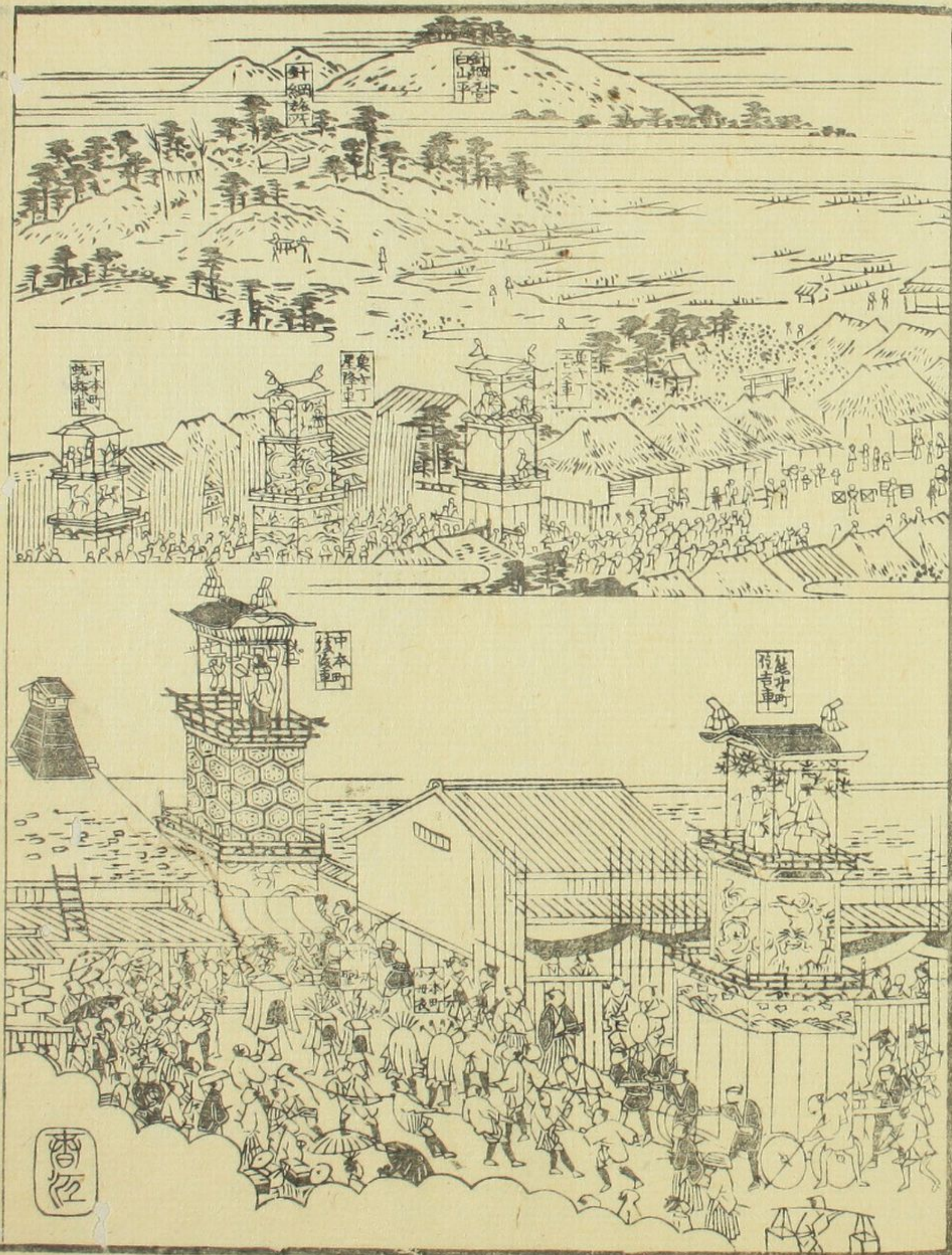
針綱神社  
 天竺しよんに  
 所ぬ  
 くの  
 ちの  
 まり  
 鳥丸大納言  
 先祖卿

香

針網神社  
祭禮の圖



香



其二

船の

之

里系

如俤

如俤

香徑

本門

本門

中本

中本

針山

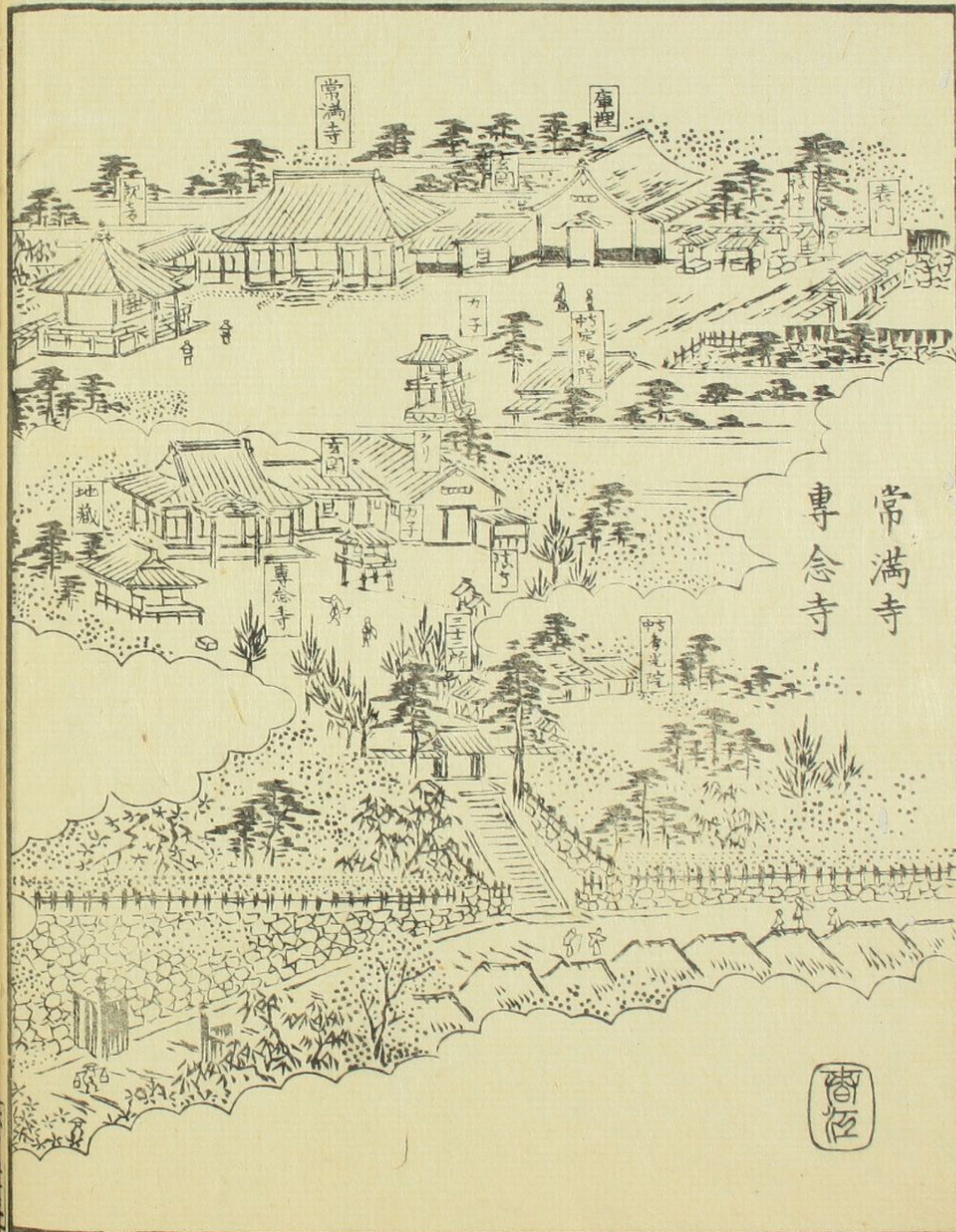
針山





故道集  
 一路通幽處登攀  
 不復難客來宜避  
 暑泉咽坐生寒花  
 雨飆香閣醒酣滿  
 玉盤寧同河朔飲  
 落日足清歡

僧圓純

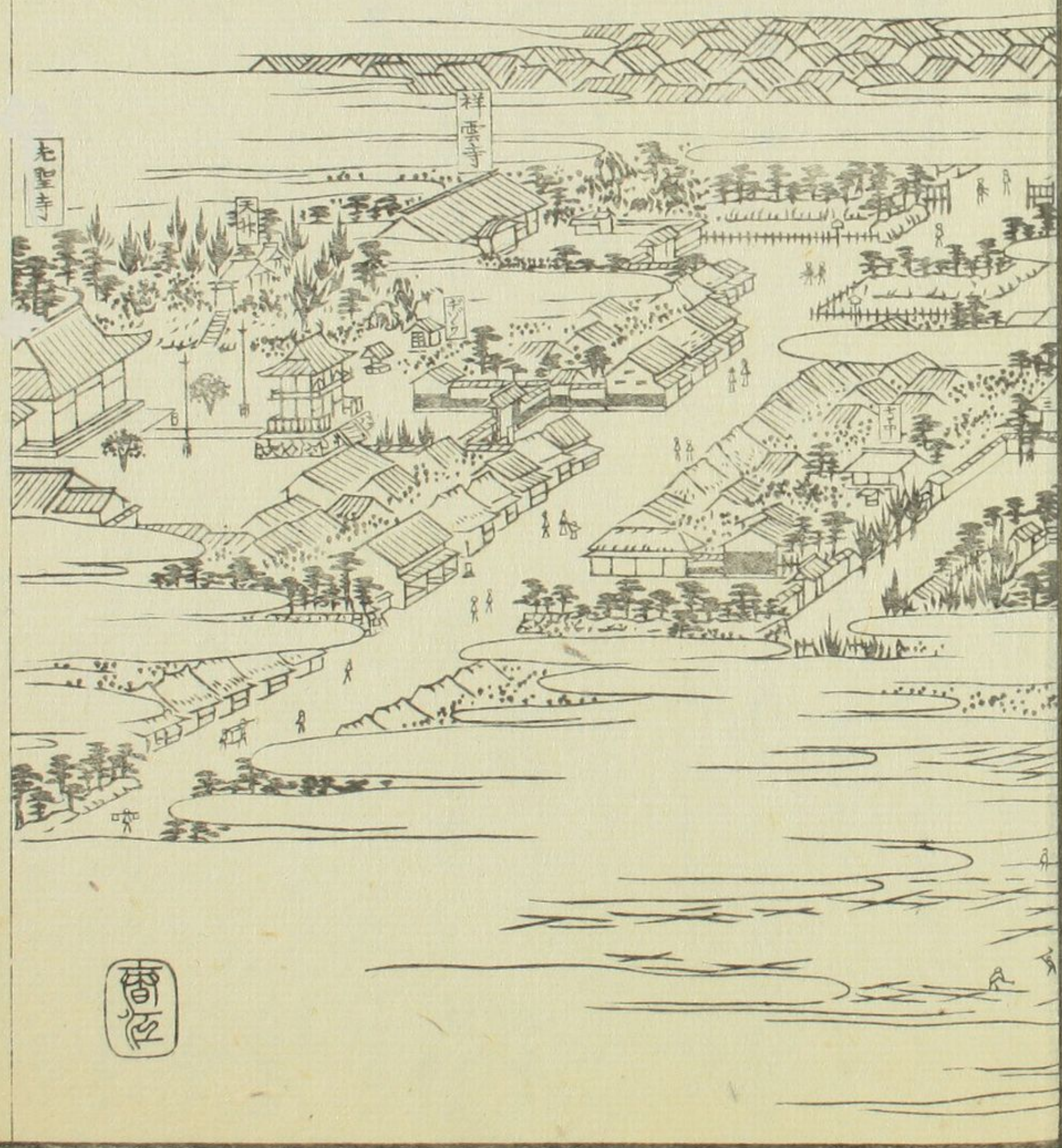


常滿寺  
 專念寺

香

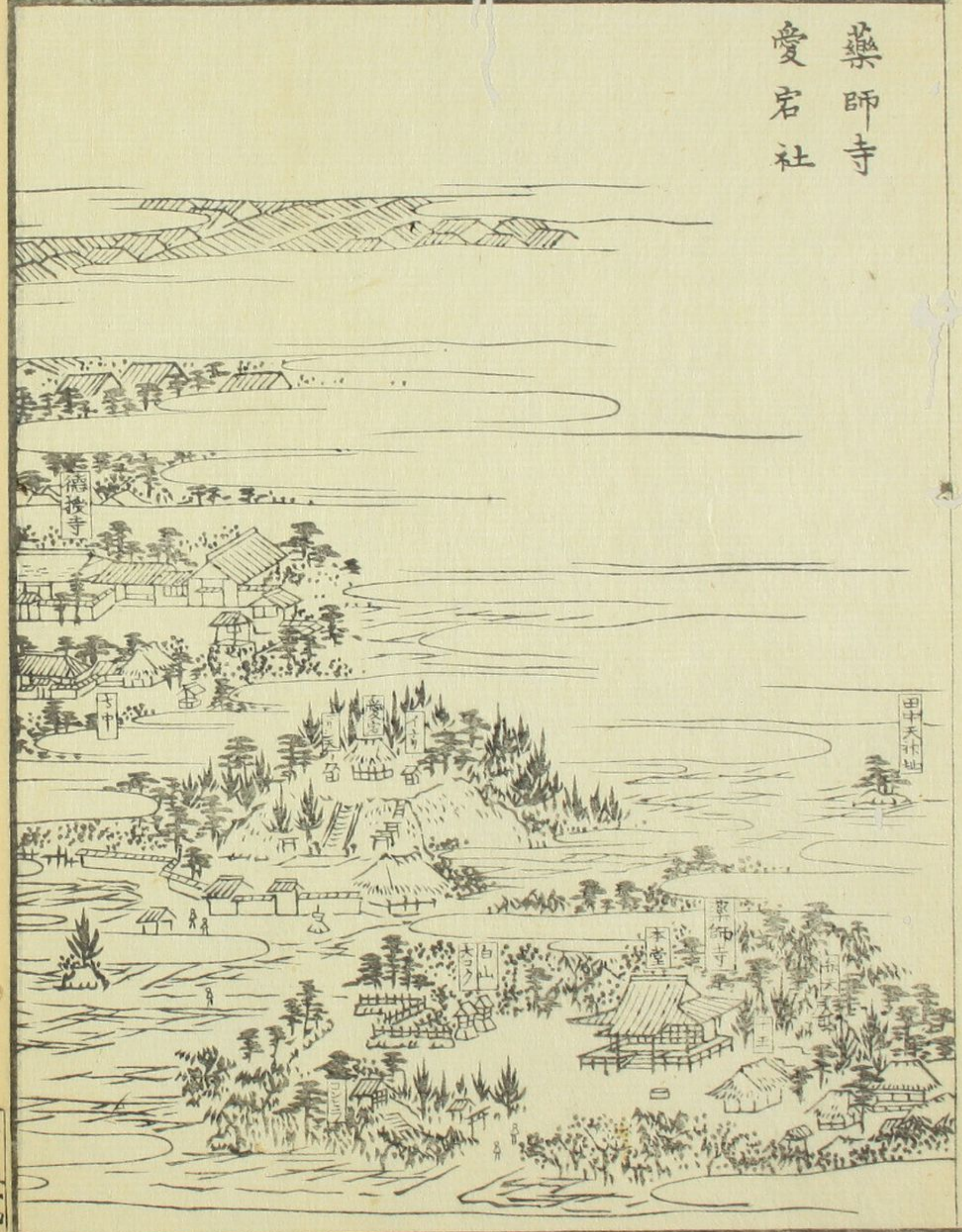
德授寺  
先聖寺  
祥雲寺

尾州先聖寺  
有贈 僧南源  
東遊子 欲退先聖轍  
直造古名場 門對玉城近  
川添玉帶長 問禪多勝士  
衛法現金湯 繼述前人志  
還地抗特郎



香

藥師寺  
愛宕社



山はくさくさのちれりる花はるはの名とよまへり  
名はふりさひるやんりまふり花散はのけけのえ  
りて見じらりしわしふさくさふらるはの春うけり

鳥丸前大納言  
光祖卿

外山前宰相  
光實卿

外山修理權大夫  
光施卿

青龍山瑞泉寺

内田小町 瑞泉宗  
系部 妙心寺末

應永二十二年妙心寺の日峯和尚あり

と建之して其師通宗因無因禪師と開山と次日峯尚ふ小庵を  
継鹿尾宗とて或山寺小寓宿一 大藏経と披閱より事多し年より  
一山山下に住る里民等其道德小ゆ一山と附屬一寺と營建して  
和為と住しむ舊此山より水乏しりしが師居住ありしが道德小よ  
りて其泉湧出たれふりて瑞泉寺と號しり 扶桑禪林僧室  
傳ふりより日峯名ハ宗舜藤原氏京都西嵯峨の人妙心寺第四  
世の住職少く文安五年正月廿六日寂と 日峯ハ  
其字ハ 其師無因禪師ハ尾  
張の産りて平姓荒尾氏より妙心寺の授翁ハ万里小路藤房入道隱

遁して住職となり其法嗣と受て妙心寺に任職一 應永十七年六

月四日八十五歳と遷化の 妙心寺六祖傳小寺より無因あり

尚ふ出生の人うまは師亦もいりりて尚ふの祖と仰げり抑當山

と本堂方丈客殿等の諸宇山腹小列一塔頭其左右の岩壁山阿小

遠りりり景趣比類ふき壯観して瑞泉十境の目りり所謂

大白峰 西の方伊吹山 萬松閣 西の方各務野 西江水 西北の方木曾 十八灘

石頭城 内田波の向ふ 宿龍池 方丈の後小 昆明池 境内小 靈龜

廟 鎮守社 雲夢澤 方丈の後 扣玄室 方丈と 等々 ○本堂 今も虚空

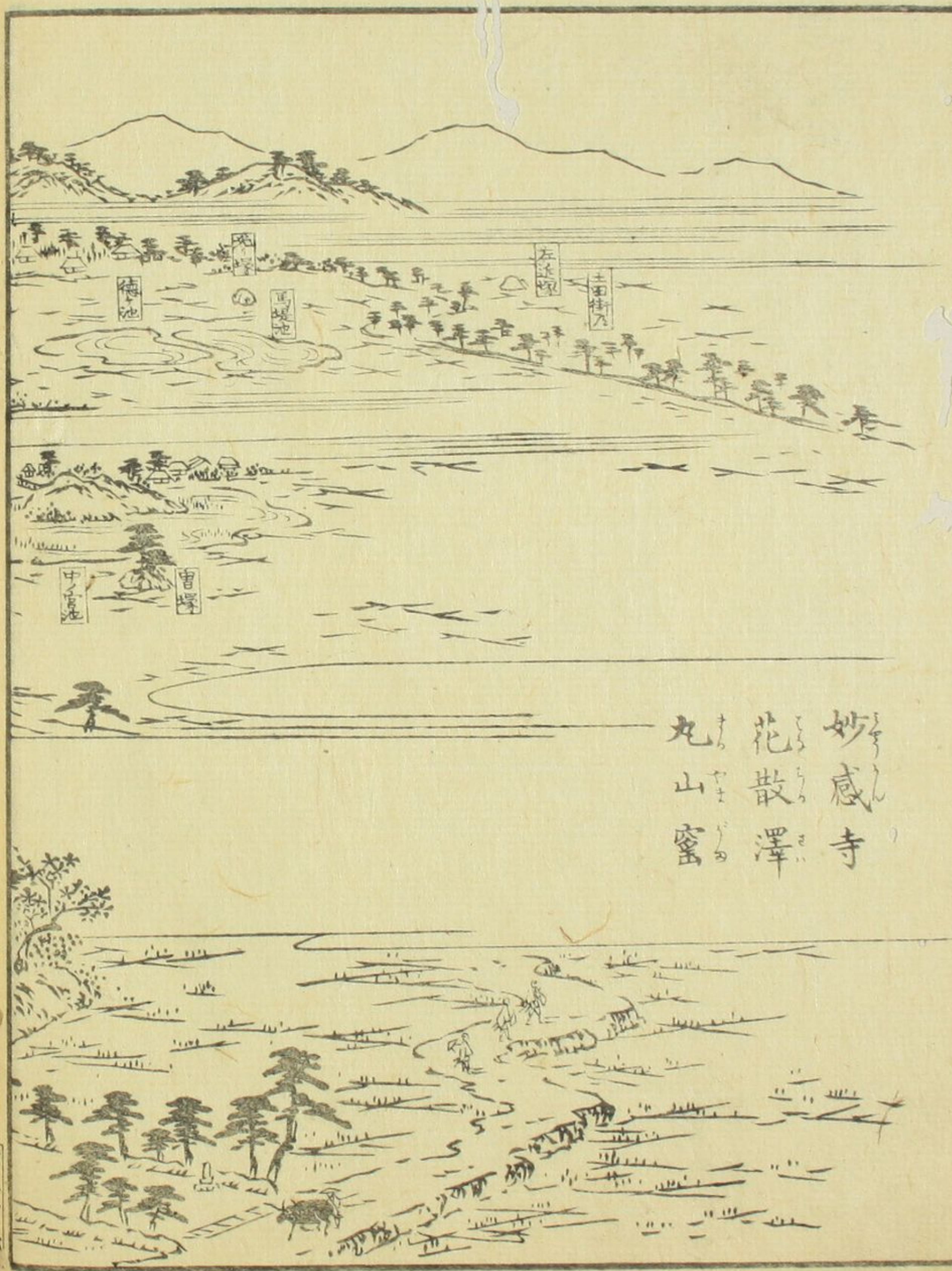
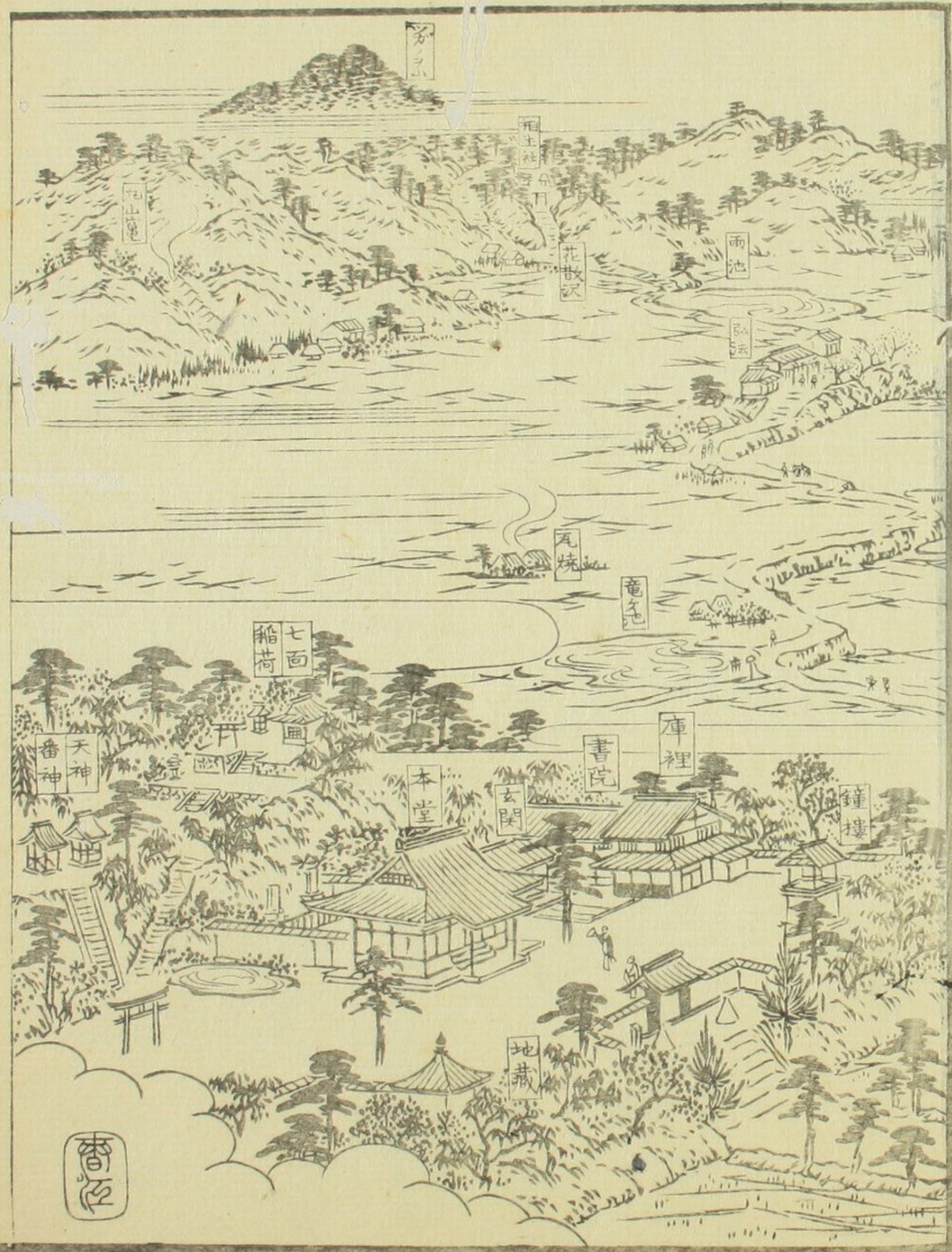
鐘樓 中門の南 上鎮守社 境内小 下鎮守社 境内小

靈室 無因和尚墨蹟無因和尚画像 愚堂 日峯和尚画像 尚贊 文殊普

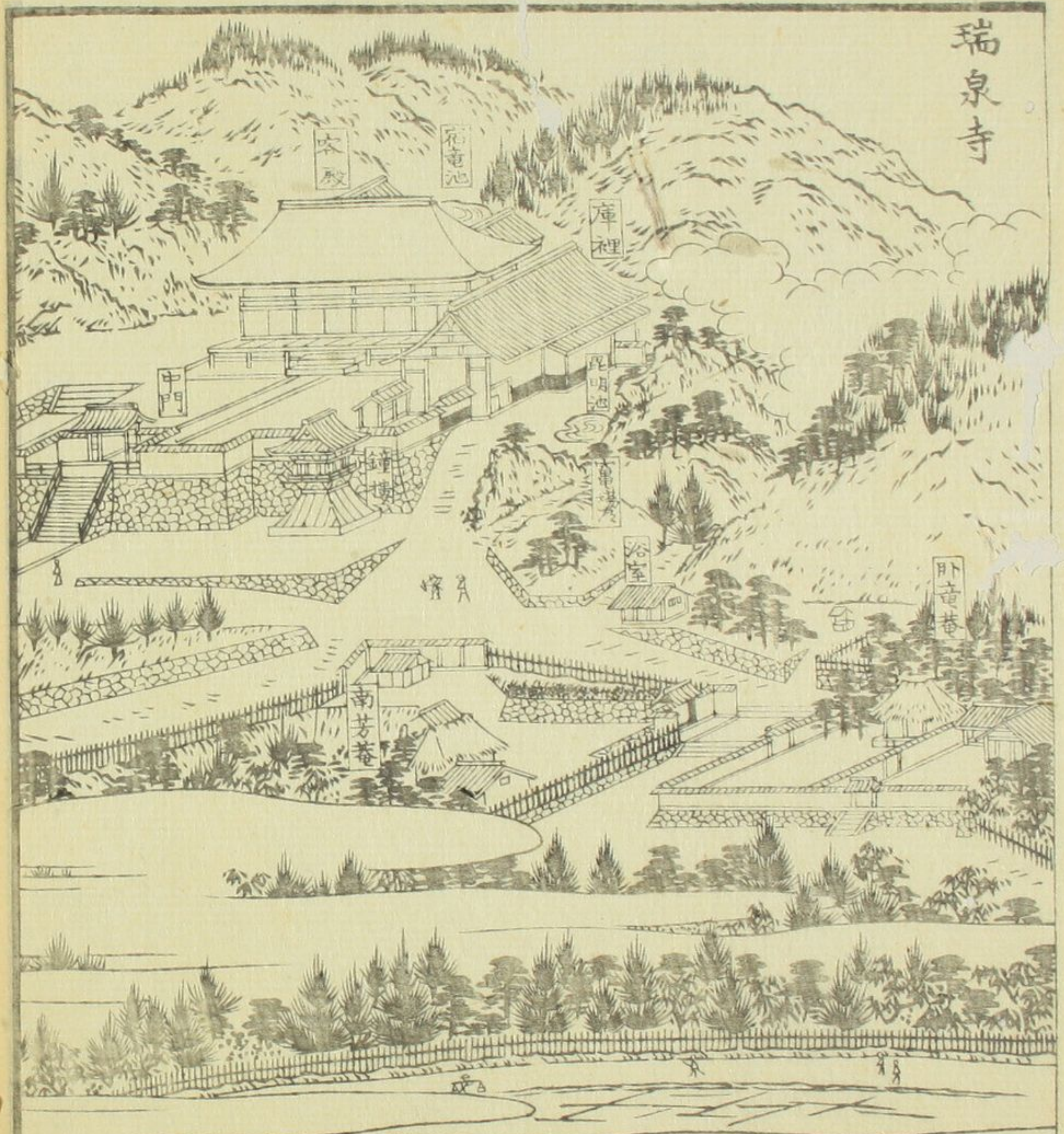
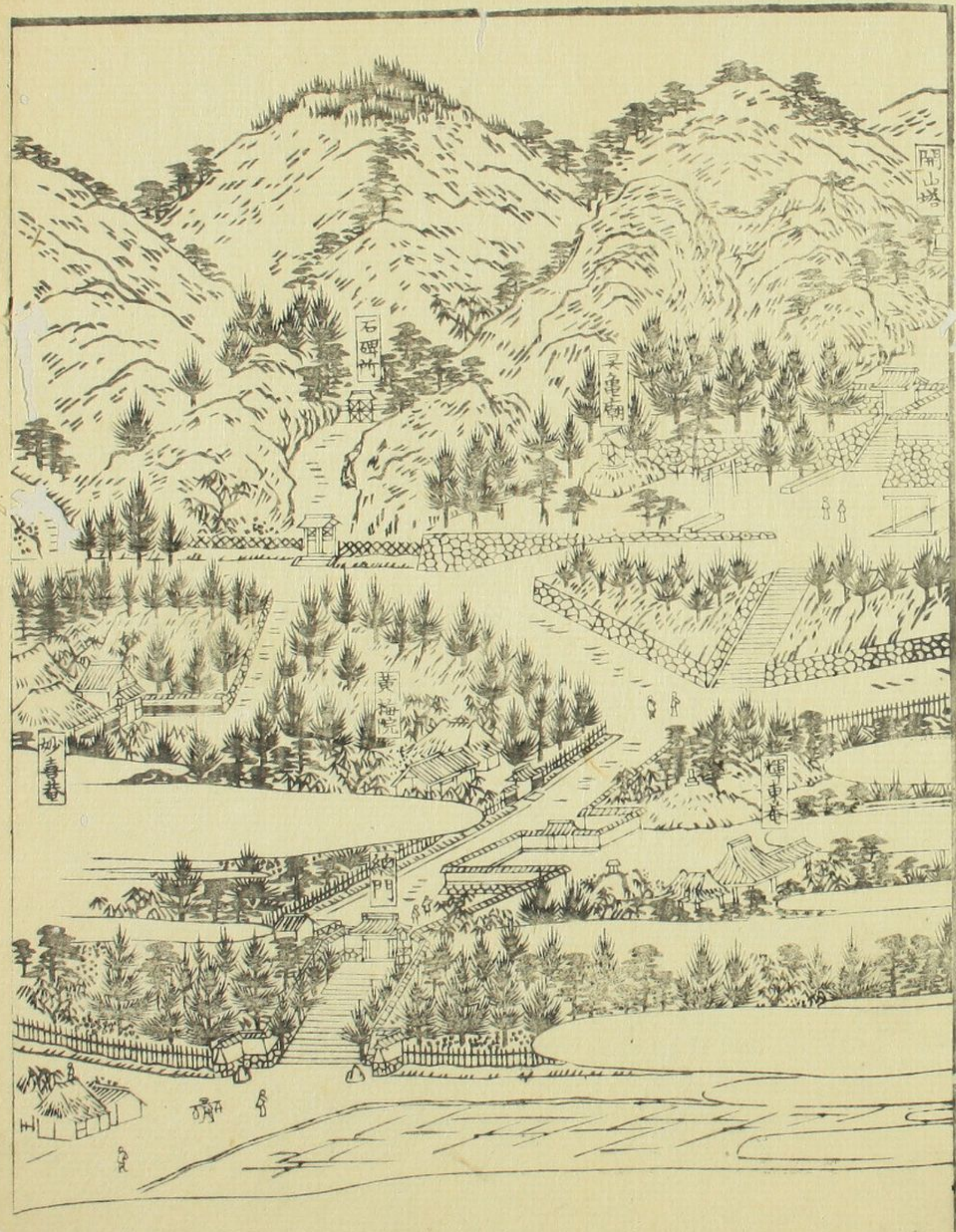
塔頭龍泉院 應仁二年 景川の建之り 卧竜菴 文正元年 悟溪の建之り

輝東庵 文明元年 時芳の建之り 臨溪院 文明十四年 東陽の建之り

稱一又後者とも 景川悟溪時方東陽の四大和尚ハ普く世人の知らる大徳の存仰へ 黃梅



妙感寺  
花散澤  
丸山



瑞泉寺

閑步道遙登  
 瑞泉宿龍池  
 上得詩禪青  
 松綠竹紅塵  
 絕又訪高僧  
 入扣玄

文州



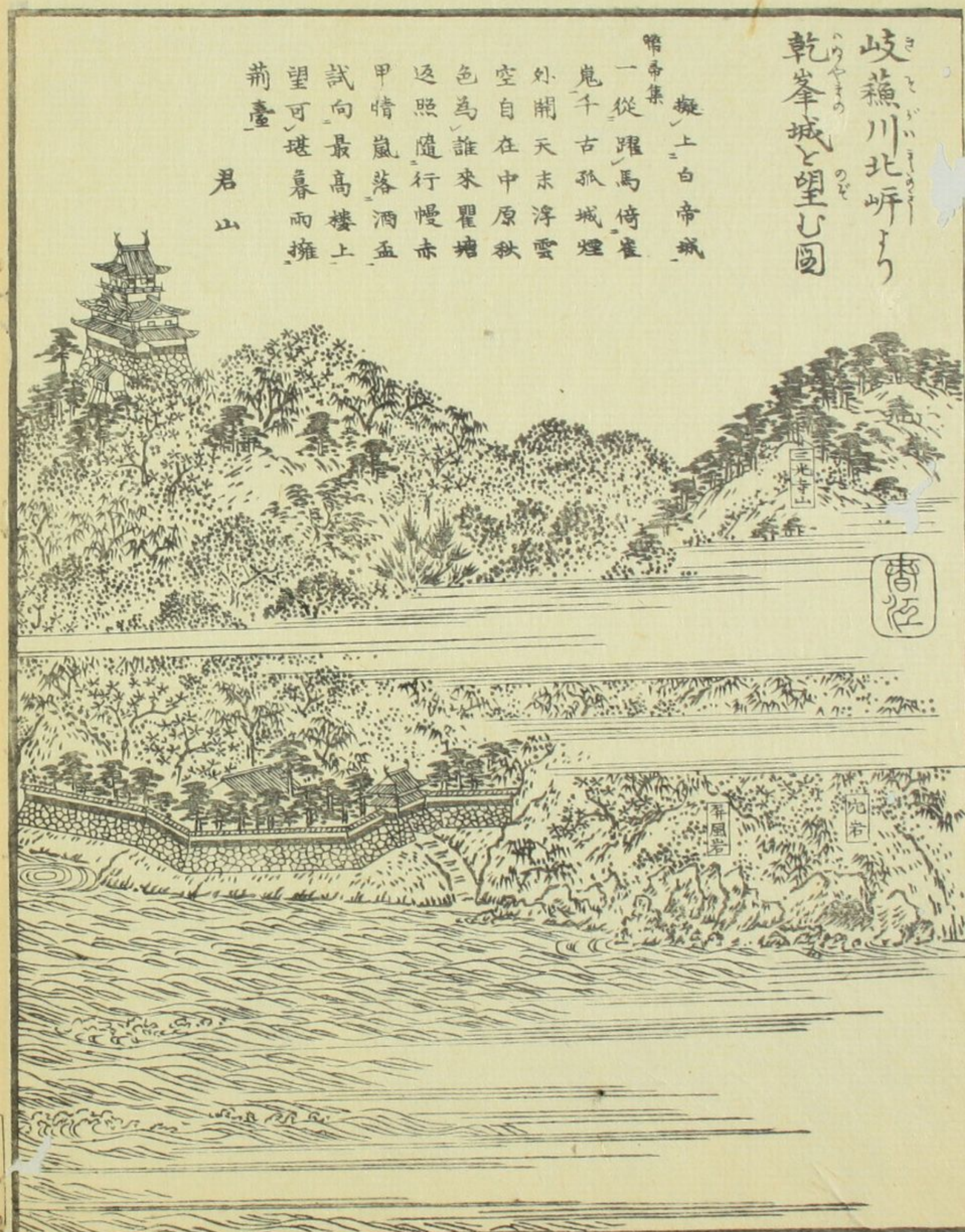








涼きと  
 夕の川  
 城の松  
 文章



岐蘓川北岨より  
 乾峯城と望む  
 擬上白帝城  
 一從躍馬倚崖  
 鬼千古孤城煙  
 外開天未浮雲  
 空自在中原秋  
 色為誰來瞿塘  
 返照隨行幔赤  
 甲情嵐落酒盃  
 試向最高樓上  
 望可堪暮雨擁  
 荆臺  
 君山

志づゝんらん夫らの地膏澤なりて鳥獸棲やもく猪鹿兎雉  
 子等甚多し古来より地頭の武家及び郷士等常々  
 遊獵と事し武業と励むにや其遊獵大山の業のう  
 つて地名もあつて頃之事りや今ハ如何に五穀菜蔬  
 眞鼈等不足し禽獸も乏しく飽富の誠小豊饒比類  
 うり上國と世小賞来りぬべし

尾張名所圖會後編卷之六畢

全部引書目録

日本書紀	古事記	釋日本紀	書紀集解	續日本紀
續紀金澤本	日本後紀	統日本後紀	文德實錄	三代實錄
古事記傳	舊事紀	類聚國史	扶桑略記	日本紀畧
大日本史	本朝世記	統三代一覽	重修統三代覽	類聚三代格
類聚大補任	弘仁式	公武令	延喜式	拾芥抄
職原抄	職原抄頭書	職負令	公卿補任	公卿傳
政事要畧	桃華葉葉	官職秘抄	倭姬世記	倭姬世記講述抄
古語拾遺	安居院神道集	神道名目類聚抄	神道聖百首抄	本朝神社考
伊勢二所大神官神名私書	皇宇沙汰文	伊勢大神宮儀式帳	大神宮諸雜事記	神官雜例集
皇大神官年中行事	神家常談	神鳳抄	春日驗記	大和本紀
神祇室典	熱田本紀	一之宮記	二十二社注式	寛平熱田縁起
熱田正縁起	元々集	熱田大神宮神事記	熱田大神宮鎮座次第本紀	寶劔本紀
熱田尊命記集説	尾張式社考	神名帳頭注	永正六年熱田講式	文和三年熱田神領目録
尾張式内神傳考證	大目神社藏本國帳原本	本國神名帳集説	尾張国内神名帳	座主本貞治神名帳
國府宮本元龜神名帳	樋河上天淵記	時綱津島祭記	参考本國神名帳集説	真清探桃集
杵築社記	龜尾天王社縁起	中島官古縁起	萬溪津島祭記	若宮幡宮社記
若宮祭巨細記	市江祭記	曉風集	針綱神社縁起	榎天満宮縁起
七尾天神縁起	繞世継今鏡	保元物語	水鏡	增鏡
榮花物語	平家物語	長門本平家物語	平治物語	愚管抄
源平盛衰記			東鑑	

兼久記  
太平記  
文正記  
信濃宮傳  
織田軍記  
戴恩記  
甲申戰記  
賤ヶ嶽軍記  
四戰記  
玉滴隱見  
台記  
康富記  
十訓抄  
皇胤紹運錄  
國造國司略志  
武家評林  
豐鑑  
勢州四家記  
小野氏系圖  
淺井系圖  
大橋家譜  
尾張人物志

兼久軍物語  
劍卷  
南方紀傳  
信濃宮傳附錄  
織田真紀  
征韓傳畧  
統撰清正記  
武家高名記  
聚樂物語  
岩洲夜話  
玉藻  
百練抄  
康正年造内裡段錢并国役引付  
新撰姓氏錄  
尾張国司歷任畧  
織田氏系圖  
難波創業錄  
稻葉系圖  
加藤系圖  
佐々傳記  
長氏系圖  
張州人物志

保曆間記  
應仁記  
甲陽軍鑑  
總見記  
當代記  
天正記  
朝日物語  
那古野合戰記  
盛長私記  
塙本螢蠅抄  
公事根元  
麒麟抄同附錄  
將軍家譜  
尾張氏系譜  
安土創業錄  
信雄御從志限帳  
山田系圖  
多々羅世系錄  
尊常系圖  
鍛冶系圖  
尾張人物志畧

神皇正統記  
應仁略記  
和漢軍談  
信長記  
太閤記  
山本權衛左衛門尉  
朝鮮征伐記  
長久手戰記  
老人雜話  
懋舜日記  
明月記  
江談  
西宮記  
本朝武林傳  
大宮司家譜  
豐臣秀吉譜  
福島正則家中分限帳  
津田系圖  
紀氏系圖  
富永系譜  
先哲叢談  
諸家人物志

大須本神皇正統記  
鎌倉大草子  
兼合記  
重修信長記  
小瀬東菴大閤記  
金山事蹟考  
編年要略  
參考長久手記  
關原軍記目薄  
常樂記  
國大曆  
尾張解文  
比賣鑑  
分脈系譜  
歷名土代  
豐臣家譜  
唱叫留記  
石黒系圖  
森氏系圖  
大中臣系譜  
日本人物史  
人物志補遺

人物掌覽  
武德編年集成  
名家時代指掌  
小栗實記  
九老尚齒會記  
紀年大成  
易林節用集  
庭訓往來  
真名伊勢物語  
山姥物語  
寬明日記  
多門院日記  
拾遺集  
新古今集  
新後撰集  
新千載集  
玄玉集  
躬恒家集  
山家集  
雪玉集  
藤葉集  
新和歌集

人品集  
武家英勇記  
武話碎玉  
義臣傳  
國朝諫諍錄  
ちもいりり日  
和字正鑑抄  
自遣往來  
伊勢物語關疑抄  
異本山姑物語  
初井日記  
萬葉和歌集  
後拾遺集  
新勅撰集  
玉葉集  
新拾遺集  
今撰和哥集  
伊勢家集  
拾遺愚草  
黃葉集  
後鳥羽院御集  
六帖詠藻

藩翰譜  
明德記  
孝法秘書  
奮事大成經  
孝女曾與傳  
元龜二年書寫字引奥書  
和名類聚抄  
類聚往來  
舊本今昔物語  
山姥物語繪卷  
夏司日記  
萬葉仙覺抄  
金葉集  
統後撰集  
統千載集  
新後拾遺集  
夫木抄  
赤染衛門家集  
色葉集  
舉白集  
臨永集  
兼盛家集

大岡秀吉出生記  
里人記  
義朝最期繪傳  
忠義士技書  
孝女曾與傳評判  
大須本和名抄  
源氏物語  
宇治拾遺物語  
辨内侍日記  
讀老日記  
古今六帖  
詞花集  
統古今集  
統後拾遺集  
新統古今集  
新撰六帖  
月清集  
明月香井和哥集  
文布  
奎信家集  
現存和哥六帖

秀吉遺事  
續武家兩談  
義經記  
近世晴人傳  
孝子林左衛門傳  
下學集  
新猿樂記  
河海抄  
因果物語  
蜻川親元日記  
御色の上の日記  
後撰集  
千載集  
統拾遺集  
風雅集  
新葉集  
柳本家集  
拾玉集  
柏玉集  
鈴屋集  
為家々集  
朽葉集

散木并歌集  
續現葉集  
良玉集  
水雲集  
尾張八景歌  
長秋詠草  
阿薰歌集  
榮葉集  
露月家集  
統徒然草  
歌枕名寄  
名所今歌集  
中古歌仙  
袋草子  
撰集抄  
六百番歌合  
天授元年五百番哥合  
龜山殿七百首  
建保三年内裡名所百首  
新百人一首  
千首和歌  
類題若菜集

李花集  
統門葉集  
元可家集  
老槐集  
津島八景歌  
結拾の枕の草葉  
蘿窓集  
國基集  
甲斐ヶ根集  
僧止水柳井記  
松葉集  
名所和哥集  
和歌部類  
袖中抄  
初まおひ  
職人盡哥合  
文明九年七月七百首哥合  
堀川百首  
玉鐔百首  
師兼千首  
類字名所和歌

草庵集  
玄々集  
鷗巢集  
紫禁草  
萬家集  
八十浦の玉  
さく枕  
醉月園詠草  
さかづき  
那濃利換和歌集  
勝地吐懷篇  
鳴海名所和歌集  
八雲御抄  
藻塩草  
延享二年公宴和哥  
南朝五百番哥合  
堀川次郎百首  
海道宿次百首  
寒中夜參百首  
奉納千首  
十六夜日記

統草庵集  
炬範家集  
仙院春日御夢想御法樂和歌  
實枝卿家集  
鳳の行々  
左幾久家集  
木綿花哥集  
醉露庵集  
秋葉拾葉集  
慶長九年熱田奉納和歌  
最勝四天院障子和哥  
新題林和哥集  
清輔真儀抄  
歌枕秋寐覺  
宗祇秘中抄  
康永二年五十四番詩哥合  
自歌合  
久安百首  
嘉元仙洞御百首  
勅撰千首  
詠千首和歌  
東関紀行

草根集  
綾足家集  
閑田詠草  
渝臣家集  
繼塵集  
重之家集  
庵主集  
正徹慰草  
名所方角抄  
伊勢名所拾遺集  
新結題林和哥集  
清輔雜談集  
歌林拾葉抄  
千五百番歌合  
白河殿七百首  
弘長百首  
室治百首  
為家千首  
名所連哥千句  
光行紀行

貞應海道記  
東海道紀行  
日光登山道記  
尊海僧正喜喜道の記  
更科日記  
宗牧東国紀行  
東国陣道記  
狂哥真寸鏡  
大發句帳  
竜丘集  
千鳥掛  
嵐雪句集  
熱田三詩仙  
阿波手集  
名所小鏡  
曠野集  
圖ふら集  
泊船集  
徴法録  
本朝語園  
幹林五鳳集  
羅山癸未紀行

身延紀行  
平安紀行  
覽富士記  
光廣卿あつまの道の記  
為村卿紀行  
宗長手記  
かこころもの記  
俳諧古渡集  
春の目  
留守懐紙  
草枕  
かここ不二  
青嵐  
春秋樂  
曠野後集  
庵太集  
前漢書  
異稱日本傳  
本朝文粹  
梅華無盡藏  
丙辰紀行

身延道記  
廻国雜記  
富士屋覽記  
長嘯子あつまの道の記  
歸家日記  
東行話説  
狂歌道中記  
醉中雅興集  
鶉衣  
巴静句集  
俳諧初字抄  
類題土朝更句集  
鶯ささく  
綴箱物語  
大草句集  
枇杷園句集  
沙鷗句集  
白氏文集  
南宋市肆記  
朝野群載  
惺窩文集  
元々唱和集

春の曙の記  
澤庵東関記  
富士紀行  
遠江紀行  
名見屋日記  
惣社參詣記  
狂歌由縁墨  
狂哥鳩杖集附録  
芭蕉翁甲子紀行  
木瓜つゞ  
温故集  
琴笛集  
乾山紀行  
曉莖句集  
鳥やぐら  
枇杷園句集後編  
蘿葉集  
東坡詩集  
廣東新語  
新撰朗詠集  
羅山文集  
詞林意行集

打出の濱の記  
庚子道ノ記  
富士見道記  
関東紀行  
玉露叢  
岐阜の道草  
古今夷曲集  
俳家寺人談  
俳諧夢蹤  
七勝記  
堅並集  
五元集  
冬のうちは  
幽蘭草  
知多の栗  
隨縁紀行  
いとが  
西朝平壤録  
嶺新餘録  
江吏部集  
東行雜詩  
南郭文集

大江匡衡家集  
尾張八景詩  
赤水長崎紀行  
白湯集  
暢園詩草  
臥游園詩集  
江東吟稿  
再游紀行  
壬壺詩稿附錄  
新川集  
社盟詩載  
常服卷藥樹詩序  
西游紀行別錄  
卧雲日件錄  
尾陽雜記  
蓬列舊勝錄  
尾濃葉葉見園集  
熟田町舊記  
衣浦千鳥集  
甲斐名勝志  
賤ノ小手卷  
尾陽年中行事略繪抄

春齋癸未紀行  
防丘詩選  
頃菟集  
放鶴集  
暢園咏物詩  
養浩齋詩藁  
江府紀行  
再遊詩草  
晞髮偶詠  
周南文集  
謝菴遺稿  
知兩亭記  
尾張風土記殘決  
撰陽群談  
尾陽候記  
佳境遊覽  
尾張古城志  
厚覽單  
岐菴路ノ記  
國鎮記  
御廟道志ノ  
諸国年中行事

日本名勝詩選  
兼總錄  
謂北吟藁  
蓬尤詩歸  
嚶鳴館詩集  
撫塵集  
江尾往還蹤  
昨水鏡集  
禪餘偶詠  
自適園詩集  
清音樓詩集  
小山園記  
民部省圖帳殘決  
張州府志  
尾陽名勝志尾陽國名勝志  
張州略記  
參考尾張古城跡記  
厚覽單附錄  
尾張名所記  
清須志  
事蹟合考  
日本名藍圖

日本詩選  
弊帚集  
庖園集  
牧山遺稿  
河梁雅契  
厚齋遺稿  
釣虛詩集  
西溟詩稿  
芝荷園文集  
自適園遺稿  
安政三十六家絕句  
泥鵬堂文集  
雍州府志  
張州雜志  
張州名勝志尾陽國名勝志  
張州志略  
熟田風土記  
古渡志  
諸国里人談  
友千鳥  
明曆板道中記  
日本國正統圖記

日本詩選統編  
麦浪詩集  
買山集  
東游草  
畫錦行  
昆玉集後編  
三世唱和  
壬壺詩稿  
金山稿  
寂室錄  
雜華集  
東海瓊華集  
新編鎌倉志  
信濃地名考  
尾列舊話略  
濃陽志畧  
熟田舊記  
知刃露見  
遊長秋記  
門真私記  
年中行事抄  
那古野古圖

東海道名所圖會  
山水奇觀  
梅園奇賞  
養蠶秘錄  
正事記  
續古事談  
群書一覽  
本朝怪談故吏  
雲根志  
雜々拾遺  
塩死一名白華隨筆  
柳菴隨筆  
常山記談  
百人一首一夕話  
尾張田歌  
物類品騰  
本草啟蒙  
日本靈異記  
元亨釋書  
儀軌  
東国高僧傳  
述并記

紀伊国名所圖會  
北越愛譜  
好古小録  
骨董集  
古今著聞集  
堪叢抄  
統編書画一覽  
安達盛長園書  
茶道羊記  
尤ノ草子  
年山打聞  
若右隨筆  
御伽婢子  
御冥加普請記  
豊原統秋野源抄  
謡曲拾葉抄  
本草正偽  
室物集  
佛祖統記  
弘法大師御入定勘決記奥書  
真言古義  
執田秘教見聞抄

畿島圖會  
和漢三才圖會  
古今名物類聚  
百鬼夜行  
大著聞集  
塵添堪叢抄  
群書類從本二言抄奥書  
近世叢話  
蝸牛菴記  
鼠齋記  
玉勝間  
拾葉筆記  
長恨歌傳  
一得松記  
文安田樂能記  
謡曲黒池竜神  
大和本草  
沙石集  
淨土血脈論  
延宝傳燈錄  
如意藏王陀羅尼經

山海名産圖會  
集古十種  
和漢茶入譜  
與魔話武可誌  
年中行事故實考  
世諺問答  
統群書類從目録  
八幡愚童訓  
菅家後集  
種蘿蔔說  
閑田次筆  
羈旅漫遊録  
古版長恨哥抄  
催馬樂古寫本  
古代手鞠唄  
謡曲揚貴妃  
用藥須知  
無住国師道跡考  
淨土日蓮宗論記  
穢跡金剛經  
夫來禪林僧室傳  
長明發心集

大山視聞圖會  
埋麴發香  
皇朝名画拾景  
辨譜  
古事談  
仙傳拾遺  
鸚鵡箋中記  
大須磨三郎繪卷物  
辨玉集  
防奠考  
行餘隨筆  
莢笠兩談  
一宵話  
郵曲別紙追加曲  
熟田踏哥詩  
本草綱目  
靈蘭集  
無住国師雜談集  
三國傳記  
本朝高僧傳  
伽藍開基記  
地藏靈驗記

地蔵感應傳 日域洞上傳 賢劫千佛名經與書 大應錄 理趣釋以抄與書  
 隨聞往生記 圓光日照禪師行狀 大念佛寺兩祖繪詞傳 佛說神咒經 寶相院門跡系譜  
 大谷遺跡錄 本願寺系圖 妙心寺六祖傳 覺源禪師略譜 山科連界記  
 蓮如上人一代記聞書 関道和尚行業記 感應寺開山木牌記 開山行狀記 西方四十八願所緣起  
 甚目寺文永錄起 甚目寺古圖 天永寺文明錄起 繼鹿尾山舊記 笠寺古錄起  
 大御堂寺古錄起 福嚴寺舊記 菅津正法寺錄起 余野村德林寺古記 萬松寺古記錄  
 妙真教恩寺記 祐福寺々記 浴地藏錄起 專修寺錄起 性海寺錄起 七ノ寺錄起  
 蜂須賀蓮華寺錄起 島田地藏錄起 淨念寺古記 牛立村願興寺傳記 中村妙行寺記錄  
 櫻權現錄起 大野濱葉師錄起 神書延久元年記 宣陽門院廢宜 妙興寺藏嘉祿元年因府官廳宜 大野東庵寺錄起  
 一宮地藏寺傳記 洞仙寺記錄 妙興寺藏建武四年二月因府官廳宜 同藏建武四年七月證狀 西行堂中興志  
 天平十八年東大寺古文書 熱田神官藏嘉祥三年官符 妙興寺藏延文六年寄進狀 妙興寺藏嘉祿元年因府官廳宜 長層官々  
 熱田神官藏嘉祥三年官符 妙興寺藏延文六年寄進狀 妙興寺藏建武四年二月因府官廳宜 妙興寺藏嘉祿元年因府官廳宜 天福元年十月宜旨  
 建久二年頼朝公寄進狀 正應四年訖宣記 文和三年熱田神領注進狀 永和四年妙興寺寄進狀 同藏建武四年七月證狀  
 建武五年土岐頼朝明寄進狀 性海寺藏建武五年證狀 熱田神宮祈年祭祝詞 曼陀羅寺古證文 妙興寺藏康平三年證文  
 天文三年大御堂寺勅進帳 尾張國諸社神領廢宜 大縣神社神領信長公證狀 曼陀羅寺古證文 層應元年沙弥淨阿表  
 妙興寺藏嘉曆三年沙弥歸覺讓狀 曼陀羅寺藏弘治三年十月賣券狀 長亨二年成田時重寄進狀 地蔵院古證文  
 曼陀羅寺藏弘治三年十月賣券狀 長亨二年成田時重寄進狀 如意寺過去帳 如意寺過去帳  
 龜井山圓福寺過去帳 上社村觀音寺過去帳 文安年中御番帳 妙興寺藏應永三年寄進狀

總計 八百三十六部

日本武尊の神靈白鳥と化して宇都こ宇宮みや筑紫つくし今  
 乃御許みこころよりありし草薙くさなぎの神劍かみを慕こぼせたりし天翔あまをりり  
 小此ここの二來こるる地ち乃御陵みこのみくら乎や嘗かつて白鳥しらとりはは陵みくらをを飛とび  
 稱なづへしよの室むろ敷し本ほん紀きおお詳しやうありしとと昔むかしいいししののつつららかか敷しを  
 天保八年てんぽうはちねんととふふとと此こ妹いもうとははつつらら文ぶん理り分ぶんのの風かぜかかここにに年ねん經へいは  
 大杉おほすぎ倒たふれれとと此こ陵みくら墓はかんんああららししるる海うみ中なかつあるる石いし棺かふののちちをを架か  
 上代かみよおおををささららししと思おもひひ或ある久ひさたたくくのの器うつ物ぶつ出いででいいしし神かみ跡あとののささ満み  
 いいちちりり多おほくくいいししをを考かんがへへししとと計はかりしし其その時ときのの官かみよりより擬なぞささせせるるまましし  
 たたちち小こ齋さい福ふくのの五ご等とう久ひさ納のりりり長ながきき人ひとはは家いへをを造つくりりももははののああららり

有しかるを恐し〜  
巻首小画をせ〜  
むち〜  
お〜  
書を〜  
〜  
聖は道直の二人と相共ぶ〜  
を〜  
記〜

深田精一〜  
属〜  
草稿〜  
帰ら〜  
杞の〜  
年あり〜  
御代〜  
丹小日〜  
あり〜

ふるまふ名もあらも志は人稀にあふ華といふは官とも  
きしめたまふともあらや有る能く鄙ふりの書は母  
いを受つひは友版の列ふおしたまひりい愛知あるの  
はる人の竹書をも捨てたまる心いしるこころいりて  
よりこれ書有るはかゝる大いなる高きを仰ぎ其山も  
の尾張地あり長くしる古本をたもつていふは  
本に書候うせて幾萬代も朽せ受あつていふ老の書は  
あえ喜びの流に流れりいせ母書はあつていふ  
かゝるいしるいしるいしるいしるいしるの書は

あまの十の思ふこといふはあつていふは  
邦ら書はあつていふはあつていふは  
あつていふはあつていふはあつていふは  
いしるいしるいしるいしるいしるの書は  
いしるいしるいしるいしるいしるの書は  
いしるいしるいしるいしるいしるの書は

愛知知士族中一孫少講義小田切春白



明治十三年八月廿六日出版版權屆  
明治十三年九月刻成

# 愛知縣藏版

愛知縣下名古屋區下長者町百十二番邸

剞劂

豐原堂稻夫

縣同區玉屋町二十六番邸

兌書肆

片野東四郎



